

平成22年度

# 中英研会報

第69号

東京都中学校英語教育研究会

## 平成22年度 行 動 目 標

東京都中学校英語教育研究会は、21世紀における中学校英語教育のなお一層の充実・発展を目指して活動することにその意義を有するものである。

よって、つぎのような行動目標のもと積極的にその活動を推進する。

1. 組織の充実とその活性化を図る。
  - (1) 都中英研の組織がより強固なものとなるようその充実を図り、改善を行う。
  - (2) 都中英研の各種事業により多くの教員や学校が参画することを通して、その活性化を図る。
  - (3) 都中英研の諸活動が一層活発に進められるよう、各地区の部長、幹事と連携を密にし、組織としての基盤づくりに努める。
2. 財政基盤の充実を図る。
  - (1) 従来の事業内容を見直し、経費の節減を図る。
  - (2) 新たな事業の展開を積極的に行い、収入源の確保を図る。
  - (3) 会費制の導入について、その検討を行う。
3. 人材の発掘とその育成に努める。
  - (1) 有能な人材を発掘し、リーダー層の育成を図るとともに、英語教員全体の資質向上を推進する。
  - (2) 英語教員の資質向上を目指した研修事業を積極的に企画し遂行する。
  - (3) 英語教員の養成と研修の充実を目的に、授業研究を一層活発に推進できるよう支援体制を整備する。
4. 調査・研究の充実を図る。
  - (1) 英語教育に関わる基礎的事項や活動実態についての調査活動を遂行する。
  - (2) 英語教育に関わる今日のかつ実践的な課題についての研究活動を遂行する。特に小学校段階での外国語活動との関連に留意した研究を充実する。
  - (3) 新学習指導要領移行期間に入り、その趣旨を踏まえ、円滑に全面实施ができるよう研究を推進する。
5. 英語教育に関わる関係機関や関係団体との連携を図る。
  - (1) 「全英連中学部会」との関わりを一層深め、外部機関へ主体的に発信できる組織作りを目指す。
  - (2) 文部科学省、東京都教育委員会、東京都教職員研修センターとの関わりをより充実させる。
  - (3) その他、英語教育に関わる関係諸団体との関わりをより充実させる。
6. 今年度開催の関東甲信地区英語教育研究協議会東京大会に向け、組織を挙げて運営にあたり目標を達成する。
  - (1) これまでの広報媒体を活用して、各種情報の発信を行う。
  - (2) HPの活用を図り、それを通して各種情報の受信・発信を行う。

# 目 次

●都中英研の結束力を知る！	井田 宗宏	1
●これからの外国語教育	平木 裕	2
●東京都教育委員会より	阿部 大介	4
●外国語(英語)に関する研修について	東京都教職員研修センター	5
●教育研究員の報告	阿部 大介	7
●実践研究		
(1) 東京都英語学芸大会Playの部 第1位	山本 崇雄	8
(2) 東京都英語学芸大会Speechの部 第1位	松野 正美	10
(3) 東京都中学校英語教育研究会 研究部 公開授業	岡崎 伸一	11
(4) 東京教師道場で学んだこと	當麻 忠幸	13
●各部報告		
・総務部報告	飯島 光正	15
・事業部報告	横山 達也	16
・調査部報告	重松 靖	17
・研究部報告	北原 延晃	19
・プロジェクト・チーム部報告	石川 賢司	19
・出版部報告	池田 武男	20
●研究大会報告		
・第50回 十五大都市公立中学校英語教育研究会連絡協議会(福岡大会)	廣田 幸男	21
・第60回 全英連総会 全国英語教育研究会大会(神奈川大会)	阿字 宏康	22
・第34回 関東甲信地区中学校英語教育研究会(東京大会)	竹下 賢	23
●各地区の活動状況		25
●中英研事業報告		52
●中英研会則		54
●役員一覧		56
●あとがき		63

## 都中英研の結束力を知る！

会 長 井田 宗宏  
(東大和市立第二中学校校長)

六十数年の歴史と伝統のある都中英研には、これまで多くの先人たちが苦勞を重ね培ってきた財産があります。それらを礎に着実に受け継ぎ、さらに発展するための具体策を考えていかなければならない時期に差し掛かっていました。

折しも今年度、都中英研は、組織としての力量や結束力を試される年となりました。一人一人が大きな目標達成に向け、手を携え合い歩んでまいりましたが、その道は決して平坦なものではありませんでした。

第34回関東甲信地区中学校英語教育研究協議会東京大会が足立区を会場に開催されました。幸いにも五百名にも及ぶ多くの参加者が見守る中、大盛況のうちに終えることが出来ました。これも一重に会員の皆様のご協力のお陰であると考えています。今回の研究主題「English Education 2010 英語教育の変革期を創る」は、時代の流れの中で特に注目すべき課題であると受け止め、設定させていただきました。平成24年度から全面实施される新学習指導要領を見据えて、活気に満ちあふれた研究協議会になりました。

本研究協議会は、これまでも、常に時代の要請を的確に踏まえ、将来の英語教育に関わる課題について研究を重ね、関東甲信地区に向けて発信してまいりました。都中英研としても、改めて本大会の歴史の重みを実感することになりました。今日における英語教育を取り巻く環境は急速に進展しております。今年度は新学習指導要領への移行措置2年目を迎え、都内の各学校では創意工夫を生かした指導計画が練られ着実に実践されています。研究協議の内容によっては、その経過を具体的に把握することができました。

中学校英語は、すべての教科の中で最も時数が多くなりますが、そのために今、何をしなければならぬのか問いかけられる場面もありました。週4時間は、これまで以上に英語科教員の一人一人に重くのし掛かってきます。さらに専門職としての力量が試されることとなります。4技能を総合的に育成する指導のあり方や文法指導と言語活動を一体的に行う指導の工夫、さらにはコミュニケーション活動についても新たな素地の育成に基づき、さらに伸長することの重要性などについて記念講演でも、分科会でも話題の中心となりました。

舞台上の公開授業では、東京教師道場助言者という立場で英語科教員の育成に関わってきた授業者の指導について注目が集まりました。参観者を意識した授業ではなく、教科書中心でベーシックな中にも、生徒自らの学ぶ力を培う様子が伝わってきました。現在、東京都には、多くの英語科の教員が授業改善に向け、日々指導に当たっています。小学校外国語活動に従事する教員も増えてきました。学校を取り巻く環境が日ごとに厳しくなり、平日に研修、出張をすること自体難しくなっている実態に直面しています。

会員の皆様におかれましては、このような中ではありますが、今後とも一層連携を深め、東京都の中学校英語教育の充実に向けて、共に歩んでいきたいと思っております。関ブロ東京大会の成果を大きな自信として捉え、さらに日々前進できる組織に近づけたいと考えています。この1年間、会員の皆様のご協力で心から感謝申し上げますとともに、一層の発展を祈念しています。

# これからの外国語教育

## ～小・中・高の連携における中学校の役割～

国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官 平木 裕

「外国語教育の変革期」を実現させるためには、小・中・高と一本でつながった外国語教育の営みの中で、中学校の果たすべき役割をしっかりと認識し、「中学校こそ変わらなければならない！」という合言葉のもと、授業の改善充実を図っていくことが欠かせない。

### 学習指導要領改訂と外国語教育を取り巻く環境の変化

今年度の中学校入学生徒は、小学校の「外国語活動」を体験してきたいわば「第1期生」である。約1年後（平成24年度）、彼らが中学3年生になると新学習指導要領が全面実施となる。また約2年後（平成25年度）に高校に入学するときには新高校学習指導要領が第1学年から年次進行で実施となる。これからの数年で外国語教育を取り巻く環境は大きく変化する。

現行の外国語教育の枠組みでは、中・高等学校における外国語科が中心であるが、これからは小学校で「コミュニケーション能力の素地」を養い、中・高等学校での外国語教育の本格的なスタートへとつながることとなる。

#### （1）小学校の外国語活動について

新学習指導要領では小学校の外国語活動が必修となる。各小学校で行われる外国語活動は中学校へ引き継がれるため、小中の連携が必要となる。少なくとも校区単位で各小・中学校はお互いに授業を見合うなどしてそれぞれの実態の把握に努めることが大切である。

小中連携の必要性については、新中学校学習指導要領においても、例えば第1学年における言語活動の配慮事項として「小学校における外国語活動を通じて音声面を中心としたコミュニケーションに対する態度などの一定の素地が育成されることを踏まえて」指導することを明示している。また、具体的な連携の内容としては、

- ①指導方法等についての検討会を開いたり、小中で合同研修を実施したりして、情報交換をする。
- ②授業参観や、中学校教員による小学校での授業を行うなどして、交流をもつ。
- ③小中連携したカリキュラムの作成を行う。

といったことが考えられる。

#### （2）中学校の外国語科について

小学校で外国語活動を体験した生徒は一定のコミュニケーション能力の素地を身に付けて中学校へ入学してくることが期待される。中学校は外国語教育の本格的スタートの時期であり、高等学校へつなぐ中核としての役割を担うこととなる。

新学習指導要領改訂のポイントとしては、

- ・ 4技能の総合的な育成が目標となる。
- ・ 年間の授業時数は各学年とも105時間から140時間に増加する。
- ・ 指導する語数は「900語程度まで」から「1,200語程度」に増加する。
- ・ 言語活動は各領域で5項目に整理改編され、その充実を図る。

などがあり、移行期間中に求められる授業改善については、

- ① 4技能の総合的な育成を目標にする。
- ② 小学校での外国語活動を踏まえて指導する。
- ③ 知識・技能の活用を図る言語活動の充実を図る。
- ④ 語彙の充実を図る。

の四つの方向性を中心として進めていただきたい。

### (3) 高等学校の外国語科について

高等学校の外国語科は、目標が中学校と基本的に同じスタンスであることは現行どおりであるが、改訂のポイントとして「授業は英語で行うことを基本とする」と明記された点がある。このことについては、

- ① 生徒が英語に触れる機会を充実する。
- ② 授業を実際のコミュニケーションの場面とする。
- ③ 生徒の理解の程度に応じた英語を用いる。

という視点を意識しておく必要がある。また、このことを踏まえて中学校での授業の在り方についても考えていかなければならない。

### おわりに

昨夏文部科学省より、授業の「実践事例映像資料」DVDを全中学校に配布した。このDVDは、いわゆる「名人の授業」を集めたものではない。もちろん、どの授業もすぐれた実践ばかりであるが、それぞれ注目に値するポイントがある。いずれも、上述のとおり、新学習指導要領への移行期間における指導改善のポイントとして強調しているものである。授業の随所に解説を入れてあるので、今後授業改善を図る上でぜひ参考にしていただきたい。

DVDの最後に示したメッセージを最後に引用したい。「(前略)中学校こそが変わらなければ、この変革は真に大きなうねりとはなり得ないことをここで強調しておきたい。生徒たちが英語を使って生き生きと活動する授業が全国に広がることを心より期待している。」

## 東京都教育委員会より

東京都教育庁指導部義務教育特別支援教育指導課 指導主事 阿部 大介

はじめに、歴史と伝統ある東京都中学校英語教育研究会が、これまで中学校英語教育の充実・発展に多大な貢献をしてこられましたことに対し、深く敬意を表するとともに、東京都の教育施策の推進に御尽力いただいていることに厚くお礼を申し上げます。

さて、平成23年度は新しい中学校学習指導要領の移行措置の最終年度になります。外国語科の改訂の趣旨には、「聞くこと」や「読むこと」を通じて得た知識等について、自らの体験や考えなどと結びつけながら活用し、「話すこと」や「書くこと」を通じて発信することが可能となるよう、これらの4つの技能を総合的に育成する指導の充実などが示されています。

昨年11月に、本研究会が中心となって開催した、第34回関東甲信地区中学校英語教育研究協議会においても、各分科会の研究テーマは、いずれも新しい学習指導要領の目標に深くかかわるものであり、今後の中学校英語教育の充実・発展に向けた有意義な話し合いが行われました。これも本研究会の皆様の日々の教育活動における着実な研究と実践の積み重ねの成果であると認識しております。

東京都教育委員会では、平成22年度に東京都の中学校英語教育の一層の充実に向け、新たに二つの事業を開始いたしました。第一は、教育研究普及事業です。これは東京都教育委員会が認定した研究団体に対し、研究の推進及びその成果を普及するための経費を支給するとともに、都の指導主事を派遣し、研究の支援をするというものです。今後、東京都における英語教育の充実に向け、東京都教育委員会と関係研究団体とのより一層の連携を深めてまいりたいと思います。

第二は、東京都内各地区の教育研究活動の中核となる教員を養成することを目的とした教育研究員事業です。この事業については、教育研究員中学校外国語部会の報告に詳しく紹介させていただいています。

今後とも、外国語科を担当する先生方が、学習指導要領の趣旨を踏まえ創意工夫された授業実践を推進することを通して、生徒たちのコミュニケーション能力の基礎が確実に育まれることを期待しています。

終わりに、本研究会が優れた実践や研究から互いに学び合う場として、教師としての資質・能力の向上を図り、中学校外国語教育の一層の充実に向け取組を進めていただくことをお願いするとともに、会員の皆様の御活躍と本研究会の益々の御発展をお祈りいたします。

## 東京都教職員研修センターにおける 外国語（英語）に関する研修について

東京都教職員研修センター 統括指導主事 川越 豊彦  
指導主事 林 宣之

平成22年度は、外国語（英語）に関する専門性向上研修を下記のとおり実施し、多くの先生方が受講した。

### <専門性向上研修 英語ⅠA>（全3回）

「英語科におけるコミュニケーション能力を高める授業づくりのポイント」

- ねらい… 新学習指導要領の目標及び内容等を理解するとともに、コミュニケーション能力を高める指導方法を学び、基本的な指導力を身に付ける。
- 特色… 学習指導案作成上の留意点や言語活動の取扱いについて学んだ。
- 講師… 東京学芸大学 金谷 憲 教授 他

### <専門性向上研修 英語ⅠB>（全3回×2）

「エンジョイ！ 小学校外国語活動」

- ねらい… 新学習指導要領の目標及び内容等を理解するとともに、具体的な教材や授業展開、基本的な指導方法について学ぶ。
- 特色… 津田塾大学との連携により、授業研究をとおり、教材の活用方法等について体験的に学んだ。
- 講師… 津田塾大学 オープンスクール講師 他

### <専門性向上研修 英語ⅡA>（全2回）

英語科における4技能を総合的に育成する指導と評価

- ねらい… 英語科における「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」を総合的に活用できるコミュニケーション能力を育成するための指導方法を身に付ける。
- 特色… 生徒が自らの考えなどを発信できる力を育成する指導方法や評価の在り方について学んだ。
- 講師… 昭和女子大学 金子 朝子 教授 他

### <専門性向上研修 英語ⅡB>（全2回）

「言語活動の充実を図る指導のポイント」

- ねらい… 英語を理解し、英語で表現できる実践的な運用能力を養うための授業展開や指導方法を学ぶ。
- 特色… 津田塾大学との連携により、外国人講師からコミュニケーション能力の充実に関する具体的な指導の工夫について学んだ。
- 講師… 津田塾大学 オープンスクール講師 他

### ＜専門性向上研修 英語ⅡC＞（全2回）

#### 「学校の組織力を生かした小学校外国語活動の推進」

- ねらい… 小学校外国語活動を担当する中核的な指導者を対象に、校内体制づくりやチームティーチングの進め方等について学ぶ。
- 特色… 小学校外国語活動を校内で推進する上での課題や改善策、校内研修の具体策について学んだ。
- 講師… 筑波大学大学院 卯城 祐司 教授 他

### ＜専門性向上研修 英語Ⅲ＞（全2回）

#### 「英語科教育の今日的課題と指導の在り方」

- ねらい… 英語教育の今日的な課題やこれからの指導の在り方を理解し、中学校、高等学校の円滑な接続を図る指導の工夫について学ぶ。
- 特色… 中央教育審議会専門部会委員を務め、英語講座等で活躍している吉田研作先生から、これからの英語教育について、オールイングリッシュによる講義を受けた。
- 講師… 上智大学 吉田 研作 教授 他

この他に、以下の外国語（英語）に関する研修を実施した。

### ＜進学指導のための授業力向上研修E＞（全4回）

- ねらい… 昨今の大学入試の現状と課題について学び、教科指導における授業力及び進学指導における実践的な指導力を高める。

### ＜中高一貫教育校教員養成研修＞

- ねらい… 中高一貫教育の趣旨や教養教育、6年間を見通した学習指導等について理解を深めるとともに、中高一貫教育校における教育課程と教科指導について学ぶ。

### ＜東京教師道場＞（1年次、2年次 各全14回）

- ねらい… 東京都公立学校の児童・生徒の学力向上を図るため、教員の「授業力」を一層高めるとともに、他の教員の指導的役割を担うことのできる資質・能力を育成する。

### ＜東京教師道場練成講座＞

- ねらい… 東京教師道場修了者等に対して、教科等の専門性のさらなる向上、教育課程全般や組織マネジメント等に関する理解をとおして視野を広げ、様々な知識を融合して実践的に課題を解決することができ、他の教員を指導することができる資質・能力を育成する。

# 教育研究員の報告

東京都教育庁指導部義務教育特別支援教育指導課 指導主事 阿部 大介

東京都教育委員会では、都内各地区の教育研究活動の中核となる教員を養成することにより、東京都の教育の質の向上に資することを目的として、教育研究員事業を5年ぶりに再開しました。

教育研究員外国語部会では、英語の授業における指導の工夫や評価のあり方など、東京都の英語教育の推進に資する数々の素晴らしい成果を上げてきた経緯があり、今後、本制度を通して、各地域の中学校英語教育の中核となる教員の育成が期待されるところです。

さて、平成22年度の外国語部会には都内の6つの区から6名の教員が研究員として、「新学習指導要領に対応した授業の在り方について」の共通テーマの下、「4技能を統合的に活用させる指導の工夫」を研究主題として研究を進めてまいりました。本研究では、都内の26名の英語科教員には「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」の4技能の指導方法についての調査を、また、部員の所属校を中心に約1,700名の生徒には英語の授業に対する取組についての意識調査を実施しました。その結果を基に、「書くこと」を中心にして4技能の統合的な活用を図るためのワークシートを開発し、生徒に寄りそった授業の在り方について研究を進め、その結果を報告書にまとめました。

また、御嶽山での合宿研修も10年ぶりに実施されました。開会式から閉会式まで、各部会がそれぞれに割り当てられた宿坊で、これまでの研究のまとめと今後の方針について集中的に研修を行うとともに、2泊3日の間、寝食を共にしながら研究をしていく過程で部員同士の親睦も深めることができました。

平成23年2月15日には、一年間の研究の成果をまとめ、目黒区立第三中学校において、外国語部会の研究発表会を実施いたしました。当日は、部員による研究授業と研究報告、講師をお迎えしての講演を行い、内容の濃い研究発表会となりました。その他に、各部員の所属する地区においても、地区発表会として研究報告を行いました。

平成22年度教育研究員の研究報告会では、学習指導要領の改訂に伴って新設された小学校外国語活動も含め、各校種全ての部会の研究報告をまとめた冊子を学校に送付しますので、ぜひ御活用いただければと思います。

## Sing Like the Wind過去の風を未来へ ～戦争を知らない中学生「東京大空襲」を伝える～

都立両国高等学校附属中学校 山本 崇雄

本校では、毎年学年を超えた有志で英語劇に取り組んでいる。本校での取り組みも5作目を迎えた。毎年、脚本にメッセージ性を持たせ、本校の目指す「国語力の育成」につながるよう、英語劇を通し「ことばの力」を育てたいと思っている。昨年度はUnder the Same Skyという広島をテーマにした作品で、本大会初優勝を遂げることができ、生徒たちの努力も形になり始めた。

今年度のテーマは、「東京大空襲」。昨年度の広島に続き、「戦争」をテーマに選んだ。東京大空襲については、中学生のころ、祖父から話を聞いていたが、今日の東京の豊かさから当時を想像することは困難であった。教師になって、3月10日に何があったのか答えられない生徒を目の前にし、自分ももっと知りたいと思った頃、祖父はもういなかった。この時の後悔から何年経っただろう。平成18年に本校に赴任した時の文化祭。ある展示に目を奪われた。淡交会（OB会）の企画展示の中にあつた「東京大空襲と三中」だ。両国高校の前身府立三中にも空襲で焼夷弾が落ち、校舎も燃えた。自分が知りたかつた当時の様子や、写真が展示されており、心の中にあつた後悔の間隙が少しずつ埋められていくのを感じた。以降、淡交会の方々から色々な話をお伺いする機会を得ることができ、今回の作品を書く勇気につながっている。

今回の作品のタイトルはSing Like the Wind。風をモチーフにした物語である。これは空襲当時、強い風が吹いていたという記録からイメージした。過去の風をしっかり受けて、未来へ希望の風を吹かせる物語にしようと思ひ始めた。全体の構成や音楽は形にするのにそう時間はかからなかつたが、当時の学校や空襲を描こうとすればするほど、想像の域で行き詰まる。そこで、作品にリアリティーを出すために、戦中戦後の学校の様子を両国高校の卒業生にインタビューすることにした。その一人の佐藤正昭さんは、空襲当時、学校に宿直し、校舎が燃えるのを目の当たりにしている。このインタビューで、当時の生徒と今の生徒の違いや、授業や先生のことなどたくさんアイデアをいただき、作品に命が吹き込まれた。

できあがつた作品への生徒の反応はとてもよかつた。夏休み前には150名を超える有志が集まり、英語劇プロジェクトはスタートした。劇作りで一番大切なことは、自分の「伝えたいこと」をしっかり育てることである。この舞台で何を伝えるのかを明確にして練習していく必要がある。それが観客に伝わらなければ意味が無い。したがって、発音練習以上に時間を割いたのが、題材を「知ること」である。総合的な学習の時間を利用しての講演会では、前述の佐藤さんにも登場していただいた。生徒と学びながら、劇で伝えたい内容を育てて行く作業は、生徒が発するセリフに力を与えてくれる。「知ることにより「伝えたい」という意志が芽生え、文の意味が生きたものになっていくから

だ。さらに、戦災資料センターを英語劇参加者で訪問した。炎天下の中、長時間歩いたのにも関わらず、意欲的に展示物を見たり、学芸員さんの話を聞いたりしている生徒たちの「知る」ことへの素直な意欲は、本校の生徒の素晴らしいところの一つである。講演会の話が、実物や当時を描いた絵を見ることで、生徒たちの心に「現実」として落ちてきているのは生徒の表情から見て取れた。この後の心の変化は、彼らの演技を大きく向上させ、短期間の稽古での作品の完成につながっていく。生徒たちのこの短期間での成長には毎年感心させられる。

今年は、この一連の取り組みに日本テレビNews Zeroの取材が入った。戦後65年で、東京大空襲を特集した一連の企画の中で本校の活動が取り上げられた。夏休みの稽古に毎日のように取材が入り、劇を通して生徒がどのように成長して行くのかが記録されていく。放送では実際にはなかなか気づけなかった生徒の表情の変化が見て取れた。改めて劇活動の素晴らしさを感じる瞬間である。放送後、さまざまな反響があった。「生徒のがんばる姿に勇気をもらいました」と仙台在住の空襲経験者の方からのお手紙、「東京大空襲を語り継ぐつどい」（戦災資料センター主催）への出演依頼。各方面からお褒めのメールや電話もいただいたりする中で、自分たちの「伝えたいこと」が届いているのを実感したようだ。

伝えたいことを発信したり、受信したりするために英語を使う。つまり英語は手段でしかない。大切なのは手段としての英語の技術（発音、文法、表現など）と伝えたい内容とのバランスである。3月10日を知らない中学生やイギリスBBC放送の二重被爆者を揶揄する内容の放送などを考えるとき、英語の授業が手段としての英語の側面に傾倒することに危惧を感じる。「伝えたいこと」を「正しく知る」それを「正しく伝える」ために英語の発音や文法の正確性に思いを傾ける。そんなスパイラルが必要だと感じる。英語劇はそのスパイラルを実感させる最適な活動である。今後、本大会が益々発展することを祈っている。

最後に、生徒たちの足下であるここ東京、両国を知り、未来へつなげていくストーリーを、先輩方と今の中学生がともに紡ぐことができたことは、歴史のある本校ならでのことで、ありがたく感じる。今回の活動に献身的に協力くださった淡交会の皆様に心より感謝の意を表したい。そして、これまで、英語劇の活動に有志で手を挙げてくれた延べ2000名を超える生徒たちに「参加してくれありがとう。君たちが未来を作っているのです」とメッセージを送りたい。

## CHASING OUR DREAMS

目黒区立第十中学校 教諭 松野 正美

目黒区立中学校に優勝カップをもたらしてくれたのが、本校3年生の俣野（ただの）さんである。近年私は夏休み中に好きなテーマでスピーチの原稿を書いてくることを3年生の課題の1つとしている。そして、区の代表選考会に参加する意欲のある生徒を募っているが、自ら名乗り出てくれる生徒は例年そう多くはいない。しかし、彼女の場合は「出るからには絶対に区の代表になる」と決めて原稿を書いてきた。内容は彼女が幼い頃から抱いていたダンサーになるという夢を実現させたいとの強い気持ちを訴えるものであった。彼女の語彙力は中学生のレベルをはるかに超えていた。もちろんALTにも協力してもらい、発音や表現の仕方などアドバイスしてもらった。しかしながら、一番努力したのは本人である。日頃から英語を使うようにしている彼女の発音はとてもきれいで、流暢である。英文を少しずつ確実に覚え、間の取り方や、スピーチの山場を表現力豊かに言えるよう、定期考査の後の区連合体育大会の応援団員としての活動や合唱コンクールといった行事で大変忙しい中、スピーチの練習にも余念がなかった。

そして臨んだ区の選考会は、昨年より多くの生徒が集い、様々なテーマで各自の考えをスピーチし、甲乙のつけがたい素晴らしい内容ばかりだったが、彼女の堂々とした発表が僅差で勝つことができた。これは、最初の夢が叶った瞬間であり、次の目標が彼女の中に現れてきた瞬間でもあった。それはもちろん、東京都英語学芸大会での優勝である。彼女は「出るからには、（優勝を）ねらいます」と決意した。彼女のスピーチのタイトル『DON'T STOP CHASING YOUR DREAMS』を自らが実践していたのだった。本大会は広い会場のステージで行われ、当日にならないと順番がわからない。そのため何番目であろうと自分のペースでスピーチをしようとイメージトレーニングを重ね、本番に臨んだ。直前にかげをひいてしまというアクシデントがあったが、持ち前のファイトで乗り越えた。発表順はなんと1番。それを見たたん、彼女のハートに火が赤々と点った。1番のプレッシャーをはねのけ彼女は堂々とスピーチをしていた。夢こそ偉大であると実感した。

最後に彼女のメッセージを各中学校の生徒の皆さんへ送りたい。“Consequently, it's (dancing is) about the satisfaction and integrity in working hard for something and being proud of what you have ever achieved.

### (3) 実践研究

東京都中学校英語教育研究会・研究部・公開授業  
「生徒がアウトプットした重要動詞のコロケーション調査」  
～ picture describingの活動を通して～

品川区立日野学園 教諭 岡崎 伸一

#### 1. はじめに

研究部の平成21年度のテーマは「生徒がアウトプットした重要動詞のコロケーション調査」であり、picture describingの活動を通して、どれだけアウトプットできたかを調査した。（詳細は、『語いと英語教育（33）』を参照）

私は平成22年2月23日、本校の格技室にて、研究部の公開授業の授業者を務めた。学年は8年生（中学2年生）であり、新出の文法項目はthe mostを使った最上級であった。

#### 2. Picture describing

前時に教科書内容のpicture cardsを活用して口頭導入を行い、本時の授業では、復習段階の発表活動として生徒にpicture describingをさせた。（導入から発表までの流れは、下の「4. 指導案の一部」の左横にある四角内の※①導入～⑥発表を参照。）

そこでの評価規準を「1枚の写真や絵に関して、3文以上で説明ができ、自分の意見や感想などを付け加えられる。」（話すこと・表現の能力）と設定し評価をした。ここでは3枚のpicture cardsがあるので、3文×3枚+自分の意見（+理由）となり、生徒は10文以上で表現することになる。尚、当日の3名の発表者はいずれも上述の評価規準をクリアできた。

#### 3. ワークシート

右の図は練習用のワークシートである。授業ではpicture cardsを電子黒板で提示しているが、それらと同じものをワークシートに載せている。

その下にはチェック欄を設け、家庭や友達との練習で発表までの手立てを示している。例えば、音読回数や具体的な評価規準や注意点などである。

チェックを入れていくことで発表活動までに生徒自身が必要な練習を把握できるようになっている。



#### 4. 指導案の一部

⑤ペアで練習 ⑥発表 ※①導入 ②内容理解 ③音読 ④家で練習	me, because ...			
	Review Work【10分】			
	復習 2) ② Oral Review < 4 > ② § 1 picture describing の練習 < 3 >	② ペアで練習する。	* me があるものを繰り返し認させて確認する。 * モニターする。	継続(A②), 発表(B①),
■ § 1 picture describing の発表 3) § 1 picture describing の発表【5分】 (発表生徒の良かった点を全体に伝える)	* 指名が発表する。 * 自分も使いたい表現をメモする。	* 各アミノ酸は上記の練習をモニターして決める。		
New Material【35分】				
■ The most の練習 4) ④ 上記の練習 < 3 > 5) 科目の絵を示し質問を投げかける。 * Which in the most important (of the five) to you?	質問に答える。 * ... in the most important of the five...			
§ 2 英文内容 < 導入 > 5) Oral Introductions < 2 > (2枚のピクチャーカードを使う)	質問に答える。 * 指名されたら繰り返す。	* 悪い質問から入る。 * me があるものを繰り返し認させて確認する。		
■ § 2 の教科書本文の内容理解 6) Reading ① 2 つの質問を英語で与える。 * In a fuel cell how a power station? * What does it give off when it makes electricity? ② Silent Reading (2 minutes) ③ 答とその根拠の確認をする。 ④ 問いを2つ出し § 2 の内容確認をする。 ⑤ ポイントを説明。 7) Word Flash で新出語の確認 (提示して、読みを確認)	5) ① 本文を読み、答を探す。 * Yes, it in (It a little a small power station). * It gives off only water. ② 黙読し、根拠に下線を引く。 ③ ページと行を根拠に答える。 ④ 問いに答える。 ⑤ P.75 の3~4行目に下線を引く。 7) 見て発音する。	6) ① 1分後、日本語で補助する。 * ... * ... ② 机間指導に入り、読み直しをしているのが確認する。 ③ ページと行を確認する。	継続(A②),	
■ § 2 の音読練習 8) Reading aloud ① Choral reading. ② Duos reading. ③ Pair reading. 9) ワークシート 9 の配布、picture describing の練習。	⑥ 指名されたら音読する。 ⑦ 音読のペースで音読する。 ⑧ 役割を決めて音読する。 9) 4名で練習する。	7) 発音が不明瞭と思われるものを再確認する。 ⑧ ペアで確認させる。 8) ① 発音が不明瞭と思われるものは再音読させる。 ② 個別指導に入る。 ③ 座った生徒の交代を促す。 9) 学習リーダーを先に練習することを促し、モデルにさせる。		

これは当日の指導案の一部である。ここでは、教科書内容の口頭導入から次の授業時のpicture describingでの発表活動までの流れを左横にある四角内に「※①導入～⑥発表」で示してある。

#### 5. 生徒を信じて

当日、私は予定外の3名を指名した。その理由は、教科書音読の回数であった。約250名近くの参観者を前に発表ができるのは、練習をきちんとやってきた生徒だと考えた。そして、その生徒たちがよく活躍してくれたことが何よりも嬉しかった。

#### 6. おわりに

公開授業という貴重な機会に感謝し、今後も授業の腕を上げていきたいと思う。平成22年度の都中英研・研究部の研究は、コロケーション調査から辞書指導に移行した。研究部員が使用している4社の教科書の「辞書指導のシラバス作り」をしてきた。平成23年2月23日(水)の葛飾区立葛美中学校で、その発表を行った。

研究部では、授業のことを考えながら、語彙指導研究をしている。そのことで授業力アップに活かせることも多々ある。ご興味のある先生方は一緒に研究活動に参加してみませんか。

#### (4) 実践研究

### 東京教師道場で学んだこと ～中学校英語部会での研修を通して～

21道場2班1グループ 西東京市立ひばりヶ丘中学校 當麻 忠幸

#### 1. 東京教師道場概要

東京教師道場とは、授業力向上を願う部員と、知識と経験が豊富な助言者、教授によって、2年間にわたって行われる教科の専門性を高める研修である。各教科ごとに部会があり、外国語部会は高校・中学の2つの部から構成される。他に小学校外国語活動の部も新設された。中学部会には2つの班と、それぞれの班に2つのグループ、つまり最小単位としては4つのグループが存在する。各グループは3～4名の部員と1名の助言者で編成され、2名の教授がそれら全てのグループをとりまとめている。通常はグループ単位で研修を行っていく。

東京教師道場の最大の魅力は、教科に特化した速効性のある研修だという点である。またそれを支える教授や助言者の方々も、数多くの研究実績を納められている大変力のある先輩方が務められている。最初に手渡された名簿にある教授や助言者の方々の名前を見て、あまりの贅沢さに感激したと同時に、身の引き締まる思いがしたことをよく覚えている。

#### 2. 年間の流れ

研修の第1回目は、東京都教職員研修センターにおいて、それぞれの自己紹介と1年目のスケジュールの確認、担当の割り当てが決められる。この時点で、一年目については、いつ自分が授業研究を行うのかが決定される。2年目も4月に同様のことが行われる。第2回目、第3回目は助言者の先生方の授業を模範授業として参観させていただいた。この2回の模範授業の参観は自分にとっては衝撃的なものになった。助言者の先生方の行う授業は、一切の無駄がなく、一つ一つの活動に3年間を見通した明確な目標があった。そしてそれらがしっかりと繋がって1時間の授業が構成されていた。あまりにも濃い内容に圧倒された。しかし最初にこれから登るべき山の高さを実感させられたことが、その後2年間必死に勉強しようというモチベーションに繋がった気がする。

第4回目からは、いよいよ部員たちが持ち回りで授業研究を行い、協議会を通して授業改善に取り組んでいく。授業研究は基本的には月1回のペースで行われる。通常はグループ単位で行いながら、時に班単位で行ったり、他校種との合同や、1年先輩に当たる20道場との合同で実施させていただくこともあった。そして夏休みは2日間実施されるが、1日は班単位で課題を設定してのマイクロティーチング、もう一日は全校種そろってのマイクロティーチングであった。私が在籍した班では、パワーポイントを使って授業の導入を行ったり、定期考査問題を持ち寄り、評価についての研修も行った。こうした研修が2年間続き、最後は研修の成果を発表する公開授業を部員たちがそれぞれの学校で実施し、閉校式をもって研修は終了となる。

### 3. 授業研究について

通常の活動に当たる授業研究では、授業者は2週間前までに指導案を作成し、道場専用のwebメールを通して、教授、助言者、部員に配信する。そこで教授や助言者の方から指導を受けつつ、部員同士で事前協議が行われる。そしてその際、授業者は、その授業で自分が課題としていること・今現在悩んでいること・知りたいことなどを率直に打ち明けることができる。そのため参観者も意識を持って授業に臨むことができる。授業後には協議会が行われるが、ここでは通常よく見かける「ほめ合って終わり」という形式的なものにはならない。当然授業における改善すべき点が協議の中心を占める。しかし部員たち相互に「自分ならこうする」という代案を必死に提示し合ったり、助言者や教授の先生方も親身になってご教授下さるので、協議会後に落ちこむことなどは無い。むしろ事前に授業観察の視点として授業者が掲げた課題や疑問に沿って、突っ込んだ議論が行われるため、それまで抱いていた疑問が解消された晴れやかな気持ちになる。

「熱意を持って取り組めば、必ず自分の力になる」という確信が、さらなるモチベーションに繋がっていくのである。そして最初の頃は助言者が中心となり協議会が進められていくが、2年目からは司会も含め、部員たちで進行されていくようになる。授業研究後は、協議の内容を踏まえて改善指導案を作成し、それを配信して終わりになる。

### 4. 最後に

東京教師道場は、2年間という長期にわたって行われる研修のため、どうしても敷居が高い印象があるかもしれない。しかしそこで出会える教授や助言者の先生方の言葉は、その全てをメモしておきたいほど有益であり、出会う仲間たちの熱意は、一生この仕事に携わりたいと思えるほど刺激に満ちていた。これは単発の研修会に参加したり、文献を読みあさるだけでは得られないものだろう。そして速効性のある研修と言いながらも、この2年間で得たものは、決して小手先だけのテクニックではない。英語教育とは何か、3年間で育てるべき生徒像とは何かについて真剣に考えさせられた2年間であった。自分の未熟さや弱さをさらけ出した時に、そこに手をさしのべて救ってくれる仲間や先輩たちがいる、それが東京教師道場である。私のように、教科指導に悩みや劣等感を抱えている方にこそ、ぜひ勇気を持って参加していただきたい。きっとこれからの長い教員生活を支えてくれる軸を得られることだろう。

## 総務部報告

(総務部長 飯島 光正)

本年度も各部、地区幹事、部長名簿を作成し、全都の地区部長、地区幹事に配布した。また、年間事業は右記の通りである。

①の定期総会は今年度も多くの参加者を集うねらいで、時間帯を遅らせた。また、昨年度に引き続き講演会は行わなかった。②は、全英連中学部が主催し、本年度で4年目を迎えた。③の都中英研部長・幹事会は、昨年同様、教育課程の移行期間にあたることを併せ、「新学習指導要領全面実施に向けて」という演題のもと、麗澤大学教授の望月 正道先生の講演会を実施した。40人以上が参加し、盛大に行われた。④の関ブロ東京大会は11月12日(金)に足立区ギャラクシティー西新井文化ホール及び足立区教育相談センターを会場に開催された。一都八県で組織される関ブロは9年に一度の開催となり、今年度もっとも大きなイベントであった。約2年間をかけ準備を行ってきた。「English Education 2010 英語教育の変革期を創る」—新学習指導要領全面実施に向けて—を全体のテーマとし、英語教育の今日的課題のもと、五つの分科会に分かれ研究の成果を発表した。前回の東京大会に習い、県外提案を廃し、東京都の英語教員だけで分科会発表を担当した。

(東京方式)

天候にも恵まれ、約500名近い参加者が集まり、盛大に行われた。

これも会場提供を賜った、足立区、足立

区教育委員会のお力添えがあったから成し得た大会であった。当日の全体会公開授業の授業者浜内先生、そして足立第十中の生徒の皆さん、分科会の提案者、司会、記録、会場責任者等の皆さま、前日遅くまで準備にあたって下さった足立区の英語科の先生。そして都中英研の各部の先生方に心から感謝申しあげたい。大会後参加者の皆さまから「すばらしい大会だった。」という声を多数頂いた。またアンケートのほとんどが「東京大会に来て良かった。」と書かれていたことは事務局としてうれしい限りであった。

今大会の課題を整理し、9年後の東京大会の一助にしたい。さらに、来年は山梨大会である。一人でも多くの東京都の先生が山梨大会で多くの研究成果を得、研鑽を積めるよう、事務局としても働きかけを工夫改善していきたい。

### 【年間事業】

- ① 5月 定期総会
  - ・資料作成
  - ・受付業務
- ② 7月 「第4回全英連中学部研究協議会」
  - ・受付業務
- ③ 各区市町村英語教育研究部長・幹事会  
於：豊島区立駒込中学校
- ④ 関ブロ東京都事務局
  - ・11月関ブロ東京大会参加事務  
(後援申請、各県事務局との連絡、大会案内の発送、大会申し込みの受付等)

# 事業部報告

(事業部長 横山 達也)

## 1. サマーワークショップ

日 時：平成22年8月20日(金)

会 場：千代田区立九段中等教育学校

講 師：大貫 由季 教諭

(町田市立山崎中学校)

荒川 高広 教諭

(台東区立柏葉中学校)

田口 徹 主任教諭

(千代田区立九段中等教育学校)

今年度のサマーワークショップは、教師道場2年目の大貫教諭と荒川教諭、それに九段中等教育学校の田口主任教諭を講師として開催された。

大貫教諭は、教師道場で学んだことに基づいて、昨年度1年生の指導で実践したことと、今年度2年生の指導で実践していることを紹介した。

荒川教諭は、発問やコミュニケーション活動に関して、理論に裏打ちされた効果的な実践方法を紹介した。

田口主任教諭は、「小中連携・中高連携で求められる中学校英語教育の授業スタイルとは？」というテーマで、中学校で指導すべき事柄を、入門期の指導を中心に説明した。

参加者は49名であった。夏休み後すぐに生かせることを、たくさん学べたことと思う。

## 2. 第63回東京都中学校英語学芸大会

日 時：平成22年12月5日(日)

会 場：東洋学園大学

本郷キャンパス1号館

今年度も東洋学園大学をお借りして英語学芸大会を開催した。参加校の先生方や、都中英研各部の協力により、スムーズに行うことができた。

Closing Ceremonyでは、東洋学園大学の原田副学長が東洋学園杯を授与してくださった。東洋学園大学の方々に厚くお礼を申し上げたい。

### 大会記録

スピーキングの部 (参加14校)

1位 Don't Stop Chasing Your Dreams

但野アリサ

(目黒区立第十中学校)

2位 I Can Explore More...

木村 規顧

(北区立稲付中学校)

プレイの部 (参加12校)

1位 Sing Like the Wind

都立両国高等学校附属中学校

2位 Snow White and Seven Dwarfs

江東区立深川第三中学校

3位 Be the Salmon!

東京学芸大学教育学部附属

小金井中学校

特別賞 Run for Your Friend, Melos!

千代田区立九段中等教育学校

審査員 Mr Edward Weinzierl (ALT)

Mr Jun Kodama (英検)

Mr Hideaki Shigemori

(文京学院大学女子中学校)

# 調査部報告

## Communication Test を終えて

(調査部長 重松 靖)

### ◇平成22年度実施状況

平成22年度中英研コミュニケーションテストが多くの先生方のご支援とご協力を得て実施することができたことにまず感謝したい。

今年度の実施状況は以下の通りである。

2年 4,497人 (41校)

3年 2,581人 (28校)

総計 7,078人

学校数 50校

延学校数 69校

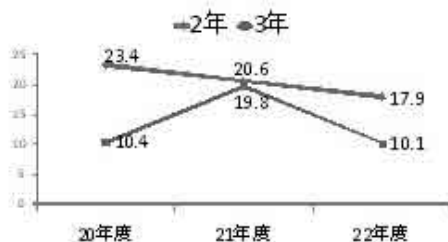
昨年度と比較すると受験者数は約1,000名程度上回ることができたとはいえ、延べ学校数はほぼ同じ結果となった。ここ数年続いてきた減少傾向に歯止めをかけることはできたが、問題の質をさらに向上させ、次年度以降一校でも多くの学校に利用していただきたい。

さて、これまでのコミュニケーションテストでは、Writingの無答率が大変高い状況が続いていた。しかし、その理由が、他の領域の問題量が多いため書く時間が十分確保できていないからなのか、それとも書く力そのものが十分身に付いていないからなのかを判断することはできなかった。

そこで今年度は、語彙・文法11分、聞くこと7分、書くこと9分、読むこと13分というように各領域別の回答時間を制限し、書くための時間をすべての受験者に平等に確保することにした。無答率そのもののデータはないので正確な分析はできないが、

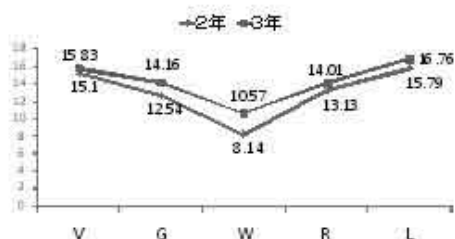
過去3年間におけるWriting無得点率の割合を示したものが次のグラフである。

### Writing無得点率



いずれの学年も前年度に比して無得点率は低くなっているが、3年では一昨年の数値とほぼ同じである。今年度の結果だけでは、結論を出すのは困難であり、継続して分析を行いたい。しかし、Writingの得点が低いことは次の領域別平均点を見ても明らかであり、Writing指導の尚一層の充実が望まれる。

### 22年度領域別平均点



今年度は、8月末の段階での受験申込み者数が非常に少なく、経費節約のためWritingの採点や音声CDのダビング、答案の集荷・発送などをすべて調査部員で行った。そのため、不手際がありご迷惑をおかけした学校もあったが、Writingの採点基準等について改めて見直す必要性を感じることもできた。

実施校からのアンケートでは「バラエティに富んだ問題で良かった」「良問であった」などの評価も頂戴しているが、「Listeningの小問と小問の間にもう少しポーズがほしい」「問題設定がやや複雑で、国語の力が弱い生徒は問題を解く前につまづい

てしまう」「未習の文が出題されていた（There構文）」等々、貴重な感想やアドバイスもいただいた。調査部では、現在次年度のスペック（問題構成）を大幅に変えることを考えており、是非参考にさせていただきたい。

#### ◇定期テスト問題作成へのヒント

我々調査部員は問題を作成するにあたり、次のような点に留意している。これらの視点は定期テスト作成時にも必ず役立つはずなので、是非参考にさせていただきたい。

##### ①テストポイントの明確化

良いテストとは、テスト後に生徒自身が何が理解できていて何が不十分なのかがはっきりと分かるものでなくてはならない。そのためにも、問題ごとにテストポイントを明確に示すべきである。入試問題に見られる「長文総合問題」は定期テストには不向きである。

##### ②目的にあった出題方法

語順の定着度を見たいならば、英文を書かせるのではなく、記号による並べ替えで十分である。Listening の力を測るのであれば、英文を読んだり、書いたりする問題は不適である。目的にあった出題方法を工夫しなければならない。

##### ③目的に合った採点基準

たとえば「書く力」を評価するときには文法の正確さを中心に減点法で評価してはいただろうか。文法や綴りの誤りがあったとしても、意味が通じる、さまざまな語彙を使おうとしている、等さまざまな観点から評価をしてあげたい。

##### ④自然な場面の明示

Reading の問題では、誰がどういう場面で読むのか、Listening ではなぜ聞かなければならないのか、等々自然な場面を明確に示すことが大切である。コミュニケーションを実感できる問題づくりに努めたい。

#### ◇テスト参加へのお願い

コミュニケーションテストは、実際の生活場面を考慮し、そこで使われている言語をできるだけ多く扱い、自然で適切であることを心がけ、コミュニケーション能力を測る工夫をしている。結果は個人成績表で返還される。個人票には、5領域別に各自の得点と自校の平均点が棒グラフで表示されているので、生徒には自分の反省点が明確になる。また、教師には授業での指導の改善に役に立つはずである。

23年度テストへの参加を重ねてほしいすると同時に、年度当初にテスト参加費として、生徒1人280円の予算の計上を是非お願いしたい。

#### ◇最後に

本年度もご多忙中、ご指導くださった東京外国語大学教授根岸雅史先生と手弁当で熱のこもった検討を重ねた調査部員に心より感謝申し上げる。

## 研究部活動報告

辞書指導（1）～辞書指導シラバス～

（研究部長 北原 延晃）

今年度から研究部の研究対象は辞書指導になった。もちろん平成24年度完全実施の新学習指導要領に書かれている辞書指導重視が発想の原点であることは間違いないが、「自立した学習者」を育てる意味でも辞書指導は欠かせない。

現行学習指導要領で週あたりの指導時数が3時間になって、それまでやってきた辞書指導をやめてしまった研究部員も多い。そこで今年度はどの語を辞書で引かせて指導するかという「辞書指導シラバス」を作ることにした。一般の中英研会員の先生に使いやすいように、東京都で使われている教科書ごとに部員がチームを組み、授業中に生徒に引かせて、その語法などを指導すべき語を調査した。

このシラバスを使って来年度はぜひ辞書指導を始めていただきたい。先行研究では辞書指導をすることによって気づきが生まれ、生徒がより主体的に学習に関わることがわかっている。そして各種のテストで好成績をあげている例も報告されている。研究についての詳細は研究部ホームページ (<http://www.eigo.org/kenkyu>) を参照されたい。（「都中英研研究部」で検索可能）

## プロジェクト・チーム部 活動報告

（プロジェクト・チーム部長  
石川 賢司）

今年度は「小学校英語活動と中学校英語授業の考察と実践」の取り組みを行った。

平成23年度から小学校では、本格的に英語活動が計画的に導入される。また、それを受け中学校でも小学校との連携がさらに重要になってくる。

各地区でも、小学校と中学校の連携が活発になってきている。以前から積極的に実践を行って成果を出している地区もある。しかし、全体的には学校文化の違いで、なかなか連携がうまくできていないところもある。

昨年度、プロジェクト・チーム部は、①小学校で英語活動がどのように児童に影響を与え、②表現活動として英語をとらえているかの2点に絞って研究をした。また、③中学校の授業で、小学校の英語活動がどのように影響をし、生徒の意欲・関心に作用しているのかを検証考察に取り組んだ。

学校文化の違いで感じるのは、第一に、小学校の学級・学年単位での取り組みや学校全体での取り組みがよく認識されていない点が特徴的であった。第二に、教師は英語が専門ではないので、とても指導に不安を持っている点であった。第三に、新指導要領の小学校「外国語活動」についての読み込み不足であった。

生涯学習の視点から、幼小中、中高大の連携や一貫教育は、今後日本教育の大きな柱になり、人材育成からもきわめて大切な課題である。

## 出版部報告

(出版部長 池田 武男)

出版部では、「都中英研だより」を、例年通り夏と秋、2期発行し、年度末に本誌「都中英研会報」を発行した。これらの機関誌は、都中英研の活動内容を都内各中学校の英語科教員に広く知っていただくとともに、情報交換の場として、英語科教員相互の連携を深め、都の中学校英語教育の一層の充実、発展のために役立たせることを目的としている。そして、これらの機関誌を都内の全中学校及び教育諸機関等へ配布している。また、別途「都中英研ホームページ」にも連携し、都外へも広く都中英研の活動を紹介するよう努めている。

今年度は、第34回関東甲信地区中学校英語教育研究協議会（関ブロ）東京大会があったため、例年の活動以外に、同大会運営面で、編集部の業務を兼ねた。さらに、分科会では、第1分科会の研究発表を担当した。

具体的な活動状況は以下の通りである。

- ・「都中英研だより」第59号

(7月12日発行)

都中英研会長挨拶、中英研総会報告、中英研年間事業計画、主な研究会・協議会の案内、役員紹介、コミュニケーションテスト紹介、関ブロ東京大会の概要、等を掲載した。

- ・「都中英研だより」第60号

(12月10日発行)

関ブロ東京大会の事後報告、各地区英語研究会の紹介（板橋区の取り組み）、今

年度上半期に行った中英研関連の研修会の報告、その他のお知らせ、等を掲載した。

- ・「都中英研会報」第69号

(3月7日発行)

都中英研の年間活動報告や英語教育活動全般のまとめとして、都中英研会長所感、文科省・都教委英語教育関係所感、英語学会報告、都研修センター報告、各地区活動状況、中英研事業報告、各部活動報告、等を掲載し発行した。

部会は年5回開いた。「都中英研だより」と「都中英研会報」の編集作業や発送作業の他に、関ブロ東京大会関連の検討事項も行った。忙しい1年間であったが、部員同士の授業研究も実施して自己研鑽にも努め、有意義な部会運営ができた。

## 第50回 十五大都市公立中学校 英語教育研究会連絡協議会

福岡大会報告  
開催日：平成22年10月15日  
於：福岡リーセントホテル

「4技能の総合的なコミュニケーション能力の基礎を養う英語科学習指導法」をテーマに協議された。

### 1 情報交換

各都市の研究会の組織とその活動報告の他に、今年度は「ALTの活用について」、「生徒のリスニング能力向上のための取り組みについて」、「4技能を総合した授業について」、「小学校外国語活動との接続について」、各都市での状況と課題も報告された。

### 2 特色ある実践報告

福岡市から「ネイティブスピーカー（以下、NS）を活用した取り組みについて」と題して、福岡市立原北中学校松田由紀子教諭が発表した。

#### (1) NS活用のねらい

- ①インテンシブリスニング活動の提供
- ②発信する力の育成
- ③異文化理解の推進

#### (2) NS活用の実際

- ①英語学習環境づくり：NSが管理・運営する英語学習教室の設置、NS作成による英語通信の発行、NSの国の文化等を紹介する掲示板の設置
- ②教材づくり：新出文型の練習用、異文化理解用、また、E黒板用の教材作成
- ③異文化・自国文化理解：異文化理解として、イースターエッグづくり、ハロウィーンの小道具づくり、自国文化理解として、七夕会の紹介
- ④発信力向上教室：NSが管理・運営す

る英語学習教室の授業外での開放

#### (3) 成果と課題

成果として、英語だけの授業に慣れ、NSに物怖じしなくなった、英語が自然に出るようになってきた等。課題としては、発信力向上の手立てが確立されていない、NSとの交流が限られている等。

### 3 講演「新学習指導要領のねらいと

#### 新しい学習指導法」

講師 東京国際大学

言語コミュニケーション学部  
新里眞男 教授

平成24年度から完全実施になる新学習指導要領に基づいた英語指導について、①小・中・高における新学習指導要領の方向性、②コミュニケーション能力とは何か、③英語指導の3領域（理解、練習、コミュニケーション活動）、④4技能の総合的な育成、⑤4技能の統合的な活用、⑥言語材料の定着を目指して、⑦新しい評価、の7つの観点からご講義いただいた。その中でも特に、中学校においては『聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う』ことが目標であり、教室での言語活動をコミュニケーション能力の育成という視点（メッセージの授受、メッセージの送り手と受け手、場面の設定）から見直すこと、1つの言語活動を複数の領域で構成するなどの工夫、日常的な英語の使用などが大切であるご教示いただいた。

(文責 小平市立小平第四中学校長

廣田幸男)

2010  
第60回 全英連総会  
全国英語教育研究大会  
(神奈川大会)

## 1 大会の主題等

平成22年11月5日(金)から二日間 神奈川県民ホールにおける総会を皮切りに、分科会等を含め第60回全英連「神奈川大会」が開催された。

本大会は「神奈川からの発信～英語教育の振り子は今どこに～」をテーマに、特に小・中・高のそれぞれの段階での英語教育のあり方を協議し、我が国のこれからの英語教育について各校種間での連携・協力のあり方や可能性について考えたいという意図に基づいて計画・実行された。

## 2 全体会の内容

開会行事、総会の後、大津由紀雄 慶應義塾大学教授によるご講演（演題「もっとことばを！ー子どもたちがことばのすばらしさを実感できる英語教育ー」）では、認知心理学の面から英語教育の在り方、授業者が配慮すべきこと、または国が示した英語が使える日本人育成に係わる戦略構想に関して、国語力を高めることの重要性も具体的に分かりやすく指摘されていた。

午後の全体会では、小学校はビデオ発表・中学と高校はステージ発表を行った。発表された授業に関する指導・助言は行わず、小・中・高の接続に関して、相模原市等における小学校英語活動の指導に当たっていたり、過去に中・高にて英語指導に当たったりした経験のある大学教授等による「英語教育における異校種間の接続と連携」と

の主題に基づくパネルディスカッションが行われた。

ここでは、小学校英語活動は中学校における英語の下請けではないこと、また中学校の先取りではないことなどについて具体例を交えて授業者が心得るべきことを子どもの具体的な様子や表現に関して説明されていた。

小学校では週にわずか一回のみの授業となるため、覚えるのではなく慣れること、英語の学習を中学校でも続けたいという意欲を高めることなど情意的側面の配慮が欠かせないことが示唆されもした。

さらには、比喩的に小学校では箱の中にもまずは詰めることが第一で、中学校ではその箱を整理し覚えさせることが重要と接続の考え方・在り方を考える際の示唆が得られたものとする。

## 3 第二日目の分科会

二部構成からなる校種別の分科会が実施された。小学校、中学校では特に望ましい接続を踏まえ授業の在り方について報告・発表されていた。具体的な子ども像を描き、その中で何をどうしたいのかを明確にすることが基本であると受け止めた。

小学校では英語活動の系統性が今後具体的な課題となると考える。このことを踏まえ、中学入学後もさらに英語を学びたいという意欲をもたせることと、それを受け止める中学校の指導を具体的に検討する必要性を強く感じた。

来年の全国大会は奈良県で開催される。  
(全国英語教育研究団体連合会副会長・  
同中学部会長 西台中学校長 阿字宏康)

第34回 関東甲信地区中学校  
英語教育研究会 東京大会 2010

テーマ

「English Education 2010  
英語教育の変革期を創る」

～新学習指導要領全面実施に向けて～

期日：平成22年11月12日(金)

会場：ギャラクシティー西新井文化ホール  
足立区立教育相談センター

1. 期日

平成22年11月12日(金)

2. 会場

ギャラクシティー西新井文化ホール  
足立区立教育相談センター

3. テーマ

「English Education 2010  
英語教育の変革期を創る」

～新学習指導要領全面実施に向けて～

4. 大会日程

9:00 受付

9:40 開会行事・全体会

10:30 公開授業

11:30 記念講演

12:30 昼食

13:30 分科会・研究協議・閉会行事

16:30 終了

5. 参加者総数

535名

(大会運営関係者、保護者、生徒を含む)

6. 大会の内容

- (1) 開会行事 開会宣言 大会会長挨拶  
来賓挨拶(東京都教育委員会教育長、  
足立区教育委員会教育長) 来賓紹介
- (2) 全体会 実行委員会研究部長(北原  
延晃 教諭)による大会主題提案
- (3) 公開授業  
足立区立第十中学校1年1組(33名)  
授業者 同校 溪内 明 教諭

単元 Lesson 6 “Assistance Dogs”

(New Crown English Series Book 1)

＜参観者からの声から＞

「あの緊張感の中で、あのようすばらしいパフォーマンスができた生徒に感心しました。また、先生の普段のご指導に頭が下がりました。リプロダクション、やってみようと思います。」

(4) 記念講演

講師 国立教育政策研究所教育課程  
研究センター教育課程調査官  
平木 裕 先生

演題 「これからの外国語教育  
～小・中・高の連携における  
中学校の役割～」

＜参加者の声から＞

「新学習指導要領や評価基準について再認識できる時宜を得た話で、大変参考になった。」

(5) 分科会

＜第1分科会＞

「4技能を総合的に育成する指導のあり方」

◇ Show & Tell の継続的な指導を通して(提案者：文京区立文林中学校 岡部  
芳枝 教諭)

◇ 4技能を総合的に育成するコミュニケーション活動～Negotiation的要素を取り入れて～(提案者：練馬区立大泉中学校 塩田裕明 教諭)

◆ 指導・助言者 上智大学教授  
吉田研作 先生

＜第2分科会＞

「文法指導と言語活動の一体的な指導のあり方」

◇ 文法事項の導入から定着を図る言語活動、生徒にとって意味のある英語での言語活動(提案者：新宿区立牛込第三中学校 大澤陽子 教諭)

◇ 文法事項の導入から定着を図る言語活

動、発展的な言語活動への流れ（提案者：練馬区立中村中学校 大森 博 教諭）

- ◆ 指導・助言者 東京外国語大学教授  
根岸雅史 先生

<第3分科会>

「コミュニケーションに対する積極的な態度の育成のあり方」

- ◇ 話の内容や書き手の考え方をとらえる英語の読み方の指導の工夫～物語の英文要約指導～（提案者：町田市立金井中学校 漆畑拓也 教諭）

- ◇ モチベーション・ストラテジーの実践（提案者：大田区立貝塚中学校 江濱悦子 教諭）

- ◆ 指導・助言者 玉川大学教授  
高橋貞雄 先生

<第4分科会>

「語彙指導と辞書指導のあり方」

- ◇ 入門期の辞書指導のあり方と辞書を活用した語彙指導の実践（提案者：江戸川区立篠崎第二中学校 上尾栄美子 教諭）

- ◇ 8. 9年（中2、3年）生の辞書を活用した語彙指導の実践（提案者：品川区立小中一貫校日野学園 岡崎伸一 教諭）

- ◆ 指導・助言者 麗澤大学教授  
望月正道 先生

<第5分科会>

「小学校と中学校が緊密に連携した英語指導のあり方」

- ◇ コミュニケーション能力を育成する小学校外国語活動と中学校英語教育の改善（提案者：足立区立中学校教育研究会・同小学校教育研究会：足立区立江南中学校 平澤 圭 教諭、足立区立辰沼小学校 横山知子 教諭）

- ◆ 指導・助言者 青山学院大学教授  
木村松雄 先生

<参加者の声から>

「提案者の実践はとても素晴らしいものであった。指導助言の先生の話は、日頃疑問

に思っていることをクリアにしてくれるとても勉強になるものであった。」

7. 大会を終えて

500名を超える参加者を得て盛況のうちに終えることができたのは、中英研のメンバーを中心にしたこれまでの研究・実践及び大会開催に向けての努力、加えて足立区教育委員会並びに足立区立小学校教育研究会・中学校教育研究会の全面的なご協力のお陰である。本大会が、今後の英語教育のあり方を示し、関東甲信地区の英語教育の改善に資することができたとすれば、望外の幸せである。

今後とも、英語科教員一人一人が自らの資質向上に努めるとともに、中英研もメンバーの拡充を図ることにより組織を強化し、次回東京大会につなげていきたい。

（板橋区立板橋第三中学校長 竹下 賢）

## 各地区の活動状況

千代田区	26左
中央区	26右
港区	27左
新宿区	27右
文京区	28左
台東区	28右
墨田区	29左
江東区	29右
品川区	30左
目黒区	30右
大田区	31左
世田谷区	31右
渋谷区	32左
中野区	32右
杉並区	33左
豊島区	33右
北区	34左
荒川区	34右
板橋区	35左
練馬区	35右
足立区	36左
葛飾区	36右
江戸川区	37左
八王子市	37右
立川市	38左
武蔵野市	38右
三鷹市	39左
青梅市	39右
府中市	40左

昭島市	40右
調布市	41左
町田市	41右
小金井市	42左
小平市	42右
日野市	43左
東村山市	43右
国分寺市	44左
国立市	44右
福生市	45左
狛江市	45右
東大和市	46左
清瀬市	46右
東久留米市	47左
武蔵村山市	47右
多摩市	48左
稲城市	48右
あきる野市	49左
西東京市	49右
羽村・西多摩	50左
大島	50右
八丈島	51左

## 千 代 田 区

### I. 研究主題

「少人数制をいかした授業研究」  
～個に応じた指導、学習意欲を高める  
教材開発～

### II. 研究の経過

- ◇4月 千代田区一斉部会
- ◇5月 英語部会  
研究主題・研究計画の作成
- ◇6月 情報交換
- ◇7月 授業研究  
小学校外国語活動への参加
- ◇8月 自主研修
- ◇9月 研修報告会
- ◇10月 情報交換
- ◇11月 研究授業  
「三人称単数現在形」  
武山直子 教諭（神田一橋中）
- ◇12月 研究のまとめ（1）
- ◇1月 研究のまとめ（2）
- ◇2月 ペスタロッチ祭  
（神田一橋中学校主幹教諭 鈴木達彦 記）

## 中 央 区

### I. 研究主題

「表現力を高めるための指導の工夫」

### II. 活動の経過

- ◇4月14日  
英語部組織作り、研究主題決定  
年間活動計画作成
- ◇5月26日  
2学年研究授業（銀座中）  
「Lesson 2 Web Report ②」  
授業者：大原有三 教諭
- ◇9月22日  
スピーキングテスト内容検討  
日程決め・役割分担
- ◇11月29日  
2学年研究授業（日本橋中）  
「旅行プランを作成しよう」  
授業者：山根木奈津子 教諭
- ◇1月19日  
1学年研究授業（佃中）  
「Lesson 8 Language Games ②」  
授業者：金澤瑛碧子 教諭
- ◇1月26日 教育会研究発表会  
◎英語部発表  
発表者：金澤瑛碧子教諭（佃中）  
山根木奈津子 教諭（日本橋中）  
◎講演「新教育課程に基づく  
新しい学校づくり」  
講 師：東京学芸大学名誉教授  
同特任教授  
帝京大学客員教授  
児島邦宏 先生
- ◇2月23日 今年度の反省  
（佃中学校副校長 柳 歆子 記）

# 港

# 区

## I. 研究主題

「小中連携を進める指導法の工夫」

## II. 活動の経過

◇5月26日(水)

研究主題決定、組織づくり

◇6月16日(水) 研修会

入門期における指導の事例発表

「MINATOカリキュラムODAIBAプランについて」

講師：港区教育委員会

渡辺裕之 統括指導主事、

小林 傑 指導主事

◇9月8日(水) 研究授業

授業者：渡部真司 教諭 (御成門中)

講師：指導部義務教育特別支援教育

指導課 阿部大介 指導主事

「お台場学園英語・国際科の現状について」

の報告：港区立お台場学園校長

福井正仁 先生

◇11月10日(水) 英語発表会

(於：高輪区民センター)

審査委員長：チャーチ 香氏

◇1月12日(水) 講演会

「意味のやりとりがある授業づくり」

講師：宇都宮大学教授

渡部浩行 先生

◇2月9日(水) 1年間のまとめ

## III. 次年度に向けての課題

小学校国際科研究部会とさらに多くの合同研究部会を開催し、英語科及び小学校国際科における小中連携のあり方について継続して研究していく。

(高陵中学校長 新庄 恵子 記)

# 新

# 宿

# 区

## I. 研究主題

「指導と評価の一体化」

①観点別学習状況の精度を高める指導と

評価の在り方

小中連携を踏まえた入門期指導

## II. 活動の経過

◇5月12日 新中教研一斉部会

組織作り、研修テーマ・計画決定等

◇7月9日 授業研究 (於：西新宿中)

授業者：森川紗希 教諭

井原章行 教諭

講師：久保野雅史 先生

(神奈川大学外国語学部准教授)

◇7月22日 夏季英語部研修会 (全日)

テーマ：「新宿区のTT授業の現状」

午前講師：竹田秋人 先生

(新宿区国際理解室室長)

テーマ：「ALTとの望ましい授業

～Teacher Talkを中心に～」

午後講師：和泉伸一 先生

(上智大学外国語学部准教授)

◇8月20日 第26回英語学芸発表会

\*新宿中のSpeechが区代表として都英語学芸大会に出場した。

◇10月13日 新中教研一斉部会

授業研究 (於：四谷中)

授業者：原 久二主任教諭

荒川光義 教諭

講師：日臺滋之 先生

(玉川大学文学部准教授)

◇2月21日 授業研究 (於：牛込第二中)

授業者：川村彩子 教諭

講師：和泉伸一 先生

(上智大学外国語学部准教授)

(牛込第一中学校主幹教諭 関 実 記)

## 文 京 区

### I. 研究主題

「実践的コミュニケーション能力を育成  
するための指導の工夫」

### II. 研究の経過

◇4月23日

英語部組織作り、研究主題決め

◇11月5日・6日

全国英語教育研究団体連合会参加  
中西智子教諭（文京区立第六中学校）

◇1月21日

研究授業・研究協議会

授業者：小寺令子 教諭（文京十中）

講 師：中村 馨 先生

（文京区教育センター）

内 容：ニュークラウン2年7課

「生徒一人一人が積極的にコミュニケーション活動に参加できる授業を目指して（教科書の本文を題材として）」というテーマの研究授業を参観し、授業参観者も参加しながら、英語教師としての視野を広げ、技量を高めるワークショップ形式の研修会を行った。それに先立ち、文京六中の中西智子教諭より、全英連参加にあたり、その内容報告があった。

（茗台中学校主幹教諭 阿久津仁史 記）

## 台 東 区

### I. 研究主題

「新学習指導要領における  
改善点への対応」

－4技能を総合的に育成する指導の工夫－

### II. 研究の経過

◇4月14日 第1回英語部会

①役員選出

②年間予定確認

③研究テーマについて

◇7月7日 授業研究

①各校の工夫

②補助教材について

◇10月13日 研究授業・協議会

・授業者：勅使川原知子 教諭  
（御徒町台東中）

・授業内容：New Crown 1 L.5

・講 師：高橋貞雄 先生  
（玉川大学教授）

◇11月13日 連合英語学芸会

レシテーションの部、スピーチの部  
劇の部の発表

◇2月2日 台教研研究発表会

・授業者：荒川高広 教諭（柏葉中）  
（東京教師道場2年次部員）

・授業内容：New Crown 2 L.8

・講 師：朴 元綱 先生  
（墨田区立文花中学校教諭

21年度教師道場助言者）

（柏葉中学校教諭 岩永彰子 記）

## 墨 田 区

### I. 研究主題

「移行措置における実践的指導のあり方と工夫」

### II. 活動経過

◇ 4月14日 研究総会・一斉部会

- ①本年度役員の確認
- ②研究主題・年間活動内容の検討

◇ 6月30日 区中研授業研究協議会

- ①公開授業 本所中学校 3年生  
白倉里香教諭・施永薫教諭
- ②講演  
「新しい時代における英語教育のあり方と表現力指導の工夫」  
講 師：後関正明 先生  
(國學院大學講師・言語文化研究所)

◇ 8月25日

区中研英語部サマーワークショップ

- ①場 所：錦糸中学校 視聴覚室
- ②内 容：「コミュニケーション能力の育成再考」
- ③講 師：安原美代 先生  
(都留文科大学)

◇ 11月17日 区中研公開授業

- ①公開授業 吾孺第二中学校 1年生  
横山利佳 教諭 小川可奈子 教諭  
平田茉莉子 教諭
- ②講 演  
「指導方法の創意的工夫と表現力の育成について」
- ③講 師 太田 洋 先生  
(駒澤女子大学准教授)

◇ 2月16日 区中研 研究発表会

(錦糸中学校副校長 石川賢司 記)

## 江 東 区

### I. 研究主題

「基礎学力の充実を目指した指導と評価の工夫」(小学校の英語活動と結びつけて)

「新学習指導要領への移行を考えた指導と評価」

### II. 研究の経過

◇ 5月7日 区中研一斉部会

- ・会 場：第四砂町中学校
- ・内 容：活動計画、組織作り等

◇ 6月29日 区中研前期研究授業

- ・授業者：原田博子 教諭  
(深川第一中学校)
- ALT：Kate Barlow
- ・単元：“be going to～”  
(stand alone lesson)

“What are you going to do in your summer holiday?”

◇ 7月27日～31日

外国人講師によるワークショップ  
(夏季集中講座)

- ・場 所：British Council

◇ 10月20日 区中研後期研究授業

- ・授業者：清水理恵 教諭 (亀戸中)
- ・単元：Columbus21 2学年Unit6

◇ 11月11日 江東区英語学芸会

- ・会場：江東区亀戸カメリアホール
- ・内 容：Speech 9校、Others 1校、Play 5校参加
- ・Play部門 “Snow White and Seven Dwarfs”  
(深川第三中学校) 都大会出場

◇ 11月15日 小学校英語研修会

◇ 2月9日 区中研一斉部会

(深川第四中学校教諭 水嶋 諒 記)

## 品川区

### I. 研究主題

「小中学校英語科における指導と評価の在り方」

### II. 研究の経過

- ◇4・5月 定例教育会にて組織計画
- ◇6月2日 研究授業 9年生部会
  - ・授業者：岡崎伸一 教諭（日野学園）
- ◇7月7日 研究授業 2年生部会
  - ・授業者：中島ちさと 教諭（戸越小）
- ◇9月8日 研究授業 5年生部会
  - ・授業者：高橋秀和 教諭（第四日野小）
- ◇10月6日 研究授業 8年生部会
  - ・授業者：松島仙太郎 教諭  
（富士見台中）
- ◇11月9日 中学校英語発表会
  - ・スピーチ部門都大会出場：  
荏原第一中
- ◇11月10日 研究授業 3年生部会
  - ・授業者：長田要子 教諭（小山台小）
- ◇11月18日 小学校英語発表会
- ◇12月1日 研究授業 7年生部会
  - ・授業者：平井寛子 教諭  
（荏原第四中）
- ◇1月12日 一斉部会
  - ・次年度に向けての組織等意見交換
  - ・研究紀要校正
  - ・小中一貫教育要領説明会
- ◇2月2日 研究発表会

（伊藤学園教諭 矢野 聡 記）

## 目黒区

### I. 研究主題

「確かな学力を身に付けさせる指導の工夫」

### II. 研究の経過

- ◇4月14日  
研究目標、研究計画、研究組織づくり
- ◇7月14日  
入門期の実態調査 テスト問題検討
- ◇9月15日 授業実践情報交換
- ◇10月27日 スピーチコンテスト  
目黒十中3年優勝
- ◇11月12日 関ブロ東京大会
- ◇12月8日 研究授業  
十一中2年 迎 里夏 教諭  
指導講師：坂下孝憲 先生
- ◇2月2日 1年間のまとめ  
指導講師：北原延晃 先生  
（まとめ）  
小学校英語活動との連続を意識して、中学校入門期の実態調査を試行した。  
英語スピーチが都大会で優勝できた。  
授業改善について多様な工夫を共有した。  
（第四中学校長 牛島順子）

## 大 田 区

### I. 研究主題

「コミュニケーション能力を高める指導の工夫」

### II. 研究の経過

- ◇4月14日 一斉部会（大森七中）
  - ・組織編成及び部員名簿作成
  - ・授業研究等にかかわる協議
- ◇9月27日 研究授業（大森七中）

授業者 河合由樹子 教諭

講 師 駒沢女子大学  
太田 洋 准教授
- ◇10月6日 小中連携事業（松仙小）

授業者 江戸野真紀 教諭

講 師 道塚小学校 山本恵美子 校長
- ◇11月11日 連合学芸会  
会 場 大田区民センター  
スピーチ20人 劇4校が発表  
区代表は大森二中の嘉田 浩さんが  
“New Culture”で都英語学芸会に出場
- ◇12月～2月 研究紀要作成
- ◇1月27日 研究授業（大森一中）

授業者 八木一真 教諭

講 師 玉川大学文学部比較文学科  
日臺滋之 准教授
- ◇2月9日 一斉部会（大森七中）

一年間の活動のまとめ

講演会

「小中連携を踏まえた英語指導の在り方」

講 師 玉川大学リベラルアーツ学部長  
佐藤久美子 教授  
(大森第七中学校長 原田承彦 記)

## 世 田 谷 区

### I. 研究主題

- (1) 4技能を総合的に育成する指導と評価の工夫
- (2) 小学校英語活動から中学校英語科指導への円滑な接続の工夫

### II. 研究の経過

- ◇5月12日 世中研総会
- ◇6月2日 前期研究会：授業研究会  
授業者：細谷貴志 教諭（瀬田中学校）
- ◇7月26日 夏期研修会  
午前の部：講義とワークショップ  
「小学校英語活動と中学校英語科指導の円滑な接続：最初の10時間の工夫」  
講 師：横浜国立大学  
教 授：佐野富士子 先生  
午後の部：講義とワークショップ  
「話すことを中心とした表現力の向上を目指して：スピーチコンテストに向けての指導」  
講 師：神奈川大学  
准教授：久保野雅史 先生
- ◇10月1日 第21回世田谷区中学生英語スピーチコンテスト予選大会  
(中町ふれあいホール)
- ◇10月22日 国・公・私立交流会  
授業者：鈴木陽子 教諭  
三堀寿美江 教諭  
横澤康子 教諭  
(世田谷区立梅丘中学校)
- ◇11月10日 第21回世田谷区中学生英語スピーチコンテスト本選大会  
(成城ホール)
- ◇1月25日 授業研究会  
授業者：櫻井あゆみ 教諭（砧中）
- ◇1月26日 世中研研究発表会  
(梅丘中学校長 中村貴美子 記)

## 澁谷区

### I. 研究主題

「小学校外国語（英語）活動との連携、  
及び新指導要領実施に際しての指導の  
改善と評価の観点の研究」

### II. 研究の経過

- ◇ 5月12日  
一斉部会、組織作り、研究主題確認、  
研究授業者確認
- ◇ 9月25日  
高円宮杯英語弁論大会東京都予選  
(2校出場：松涛中、本町中)
- ◇ 12月5日  
東京都英語学芸大会（ビデオ予選通過後、  
区代表として本町中学校1年生スピーキ  
ングの部出場）
- ◇ 1月20日 授業研究会  
(於：松涛中学校《英語教育重点校》、  
都内公立中学校での唯一の英語イマー  
ジョン実施中学校)  
授業者（英語科）：  
岸田純子 教諭 & 外国人講師  
高橋若美 教諭 & 外国人講師  
(1年英語科少人数習熟度別授業)  
授業者（音楽科）：  
佐久間花子 教諭 & 外国人講師  
(2年音楽科での英語イマージョン)
- ◇ 2月16日 澁中研発表会  
紀要発表：坪田裕希 教諭  
(原宿外苑中)  
(本町中学校主任教諭 瀧口 均 記)

## 中野区

### I. 研究主題

「全ての生徒が生き生き参加できる授業  
の工夫～少人数授業と評価をめぐる～」

### II. 研究の経過

- ◇ 4月21日 中野区中教研 英語部会  
・今年度の方針及び組織作り
- ◇ 6月16日 中野区中教研 英語部会  
内容：「テストと評価」  
・定期考査問題を持ち寄り、観点  
別項目とのつながりを検討。  
・情報交換 1年生と小学校英語  
・ICTの授業の経過報告
- ◇ 8月26日 中野区中教研 英語部会  
夏季研修会  
内容：「ICTの活用・少人数授業の指導  
と評価」  
講師：平出 敏 先生  
(杉並区立東田中学校)
- ◇ 10月20日 中野区中教研研究日  
研究授業と研究協議  
授業者 中村富美子 先生  
(中野区立中央中学校)  
「中学一年生の授業 時刻の尋ね方」
- ◇ 11月13日 中野区英語学芸会  
・野方WIZホールにて5校が参加、実施。  
区立第五中学校が中野区代表として東  
京都大会に出場した。
- ◇ 2月16日 中教研 研究発表会  
内容：「英語劇・映画・日常の工夫を通して」  
講師：安野寿美 先生  
(江戸川区立小岩第一中学校)  
(南中野中学校主任教諭 小林剛樹 記)

## 杉 並 区

### I. 研究主題

「4技能を総合的にはぐくむ指導の工夫」

### II. 研究の経過

◇4月14日 杉並教育研究会一斉部会

・研究主題・組織・年間計画

◇7月29・30・8月2日

夏季ワークショップ

・「教科書を使ったALTとの授業」

Mr. Gordon Allan (British Council)

・「『聞ける・話せる!』『読める・書ける!』が実感できる英語のトレーニング指導」山縣画児 先生 (ICC東京本校)

・「コーパス君から中学校英語への提言」

投野由紀夫 教授 (東京外国語大学総合

国際学研究院)・小中連携「小学校英語の

現状と中学校の意識」宍戸直子 先生 (桃

井第三小学校)、馬場雅人 先生 (桃井第

一小学校)、下村美智子 先生 (荻窪小学

校)、司会：春日陽子 先生 (西宮中学校)

・情報交換「ALT・少人数指導等」司

会：藤森眞保子 先生 (大宮中学校)

◇10月6日 幼小中合同研究会研究会

◇11月4日 英語学芸発表会

スピーチ、プレイなど13校129名参加

優勝Alice in Wonderland (和田中学校)

◇1月13日 冬季ワークショップ

「磯崎正信 先生 (松ノ木小学校) と末

永麗 先生 (松ノ木中学校) による英語

活動」講師：山口直美 先生 (杉並区指

導主事)・石川史子 先生 (杉並区英語

教育スーパーバイザー)

◇1月26日 杉教研究発表会

授業：奈良実紀 先生

(高南中学校)

講師：重松 靖 先生

(国分寺市立第三中学校長)

◇杉並区リスニングコンテスト

(東田中学校教諭 平出 敏 記)

## 豊 島 区

### I. 研究主題

「小中連携を生かした中学校英語指導のあり方」

### II. 研究の経過

◇4月14日 区中研一斉部会

組織作り、研究主題、年間活動計画、全

英連、関ブロ、英語学芸会の確認

◇6月

中学校英語導入期の指導についての情報

収集と分析

◇10月

小中学校外国語 (英語) 指導の現状につ

いてのアンケート調査の実施

◇11月10日

区中研小中合同一斉部会 (西巣鴨中学校)

研究授業と研究協議及び講師講演

授業者：田中すみ子

(西巣鴨中学校主幹教諭)

熊澤和志

(西巣鴨中学校講師)

内 容：買い物をするときの基本的な表現の習得 (2年少人数)

講 師：荒木秀二 先生

(東洋学園大学教授)

内 容：豊島区における小中学校英語指導の現状分析から、小学校英語教育のあり方や小中連携についての具体的な示唆をいただいた。

◇12月5日 東京都英語学芸大会

会 場：東洋学園大学

参加校：明豊中がPLAYの部に参加

(池袋中学校主幹教諭 菅野宏治 記)

## 北

## 区

## I. 研究主題

「実践的コミュニケーション能力の向上  
をめざした授業の工夫」

## II. 活動の経過

- ◇4月28日 北区教育会英語部会  
組織作り、研究目標、活動計画、  
小中一貫カリキュラム、情報交換
- ◇10月1日 外国語活動連絡会  
研究授業、協議会  
授業者：窪田雅美 教諭（なでしこ小）  
対 象：小学校5年  
内 容：What can you see?  
授業形態：ALTとのT. T.  
講 評：外国語教育アドバイザー  
田村佳子 先生、三浦邦子 先生  
坂下孝憲 先生
- ◇11月11日 連合学芸会英語スピーチ  
コンテスト  
場 所：北区立滝野川会館  
参加者：6校6名  
最優秀生徒（稲付中2年）東京都英語学  
芸大会に参加。
- ◇12月5日 東京都英語学芸大会  
英語スピーチ参加
- ◇2月17日 北区教育研究会英語部  
研究授業、協議会  
授業者：近藤満利生 教諭（赤羽岩淵中）  
対 象：2年  
内 容：Sunshine English Course2  
Program 9  
講 師：坂下孝憲 先生  
（北区外国語教育アドバイザー）  
（堀船中学校副校長 石川慎一郎 記）

## 荒

## 川

## 区

## I. 研究主題

「積極的にコミュニケーションを図ろう  
とする態度の育成～新指導要領に向け  
て～」

## II. 活動の経過

- ◇4月14日(水) 部作り  
研究主題を「積極的にコミュニケーション  
を図ろうとする態度の育成」とした。  
また本年度の活動計画と係り分担等を行  
った。
- ◇6月16日(水) 講演会  
講 師：青山学院大学大学院教授  
塚本俊也 先生  
テーマ「なぜ英語を学ぶのか」
- ◇9月15日(水) 小中合同部会  
会 場：第三瑞光小学校  
授業者：田城有加里 教諭  
单元名：「動物園に行こう」
- ◇11月5日(金)  
スピーチコンテスト荒川区立中学校連合  
生徒発表会  
会 場：サンパール荒川小ホール
- ◇11月17日(水) 研究授業  
会 場：第九中学校  
授業者：江頭葉子 主任教諭  
松本 将 教諭  
清水千晶 教諭  
（桐蔭篤教職大学院生）
- ◇1月21日(水) 研究授業  
会 場：第七中学校
- ◇2月18日(水) 研究発表会  
会 場：荒川区立峡田小学校  
講 師：東洋大学 荒木秀二 先生  
（諏訪台中学校主幹教諭 山崎 聡 記）

## 板 橋 区

### I. 研究主題

「言語活動のあり方（改善・充実）  
-小学校との連携-」

### II. 活動の経過

◇4月21日

役員選出、研究主題及び年間研究活動計画等の策定

◇6月15日 研究授業・研究協議会

授業者：伊藤雅美 教諭（上二中）

単 元：New Crown2 Lesson3

◇8月4日 夏季ワークショップ

主 題：英語指導の在り方－書くことを  
中心に－（赤塚二中会場）

講 師：東京外国語大学専任講師

工藤洋路 先生

授業者が書くこと、読むことなどについてどのように配慮すべきかを講義と具体的な演習を実施した。

◇11月9日

成増アクトホールにて14組が参加して英語の集いを実施

◇11月10日 研究授業・研究協議会

授業者：高一中・久保るつ 主任教諭

服部智恵 主任教諭

西室葉子 教諭

一年二学級三展開・助動詞can

講 師：8月4日に同じ

◇2月3日 区中研研究発表会

本部会では小学校との接続に関して3名の教員が発表

◇2月8日 研究授業・研究協議会

授業者：吉村達也 主幹教諭（板三中）

単 元：New Crown2 Lesson8

講 師：玉川大学准教授

日臺滋之 先生

（西台中学校教諭 西間木慶子 記）

## 練 馬 区

### I. 研究主題

「基礎・基本の定着を図り、実践的コミュニケーション能力の基礎を培う。また新学習指導要領に向けて基礎研究を行う。」

### II. 活動の経過

◇5月20日 区中研一斉部会

◇6月23日 授業研究会（練馬中）

授業者：上市 学 教諭

Mr. Todd Bracken

◇7月29日・30日 夏期研修会

\* 「Oral IntroductionとSpeechの指導」

講 師：石井 亨 先生

（江東区深川第八中学校）

\* 「読む力をつける授業構成・活動」

講 師：本多敏幸 先生

（千代田区立九段中等教育学校）

\* 「『学習の自立』を考える」

講 師：緑川日出子 先生

（昭和女子大学教授）

\* 「小学校英語の実際と中学校の使命」

講 師：Ms. Sayuri Gunawardene

（津田塾オープンキャンパス講師）

◇11月6日 英語学会

“A Blue Bird”（田柄中）都大会出場

◇11月10日 ビデオ研究（八坂中）

授業者：伊地知可奈 主任教諭

◇2月2日 研究発表

発表者：大森 博 主任教諭

塩田裕明 教諭

長田キムリエン 教諭

宮崎武徳 教諭

山口哲治 教諭

黒沢 敬 教諭

（八坂中学校主任教諭 伊地知可奈 記）

## 足 立 区

### I. 研究主題

「コミュニケーションの基礎をはぐくむ  
英語指導のあり方～小学校英語外国語  
活動を踏まえて～」

### II. 活動の経過

◇4月22日

一斉教科部会（第十四中）

- ・研究テーマ、活動について
- ・関東甲信越ブロック大会について

◇区中研第1回研究授業（湊江中）

授業者 湊江中 柴野泰行 教諭

◇8月3日 夏季研修会（第十四中）

「Picture describingと効果的な発問の  
仕方、スピーキング指導のあり方」

英語部研修部による

◇区中研第2回研究授業（千寿青葉中）

授業者 千寿青葉中

渡部みゆき 教諭

◇区中研第3回研究授業（第十四中）

授業者 第十四中

三輪政継 教諭、渡辺雅子 教諭

◇10月23日 区連合英語学芸会

スピーチ部門 1位 第十四中学校

演劇部門 1位 第十二中学校

◇区中研第4回研究授業（花畑北中）

授業者 花畑北中 菅原康佳 教諭

◇2月3日 一斉教科部会

- ・関東甲信越ブロック大会ダイジェスト
- ・講演「新学習指導要領改訂に向けて」

講 師 文部科学省 平木 裕 先生

（第六中学校教諭 紺野正典 記）

## 葛 飾 区

### I. 研究主題

「基礎学力を定着させ、積極的にコミュニ  
ケーションを図ろうとする態度を育成  
する指導の在り方」

### II. 活動の経過

◇4月22日

A L T導入全校説明会、割当調整会議

◇5月12日 葛中研全員部会

事業報告、会計報告、役員選出、事業計  
画、予算案、情報交換

◇6月30日 A L Tワークショップ

・指導における課題と効果的な指導法の  
研究

・A L T活用事例研究

◇8月2日 小中合同英語教育研究会

◇9月17日 研究授業・研究協議会

授業者：平形真美 教諭（青戸中）

講 師：石井 亨 先生

（江東区立第八中主任教諭）

◇10月19日 第25回葛飾区立中学校英語

スピーチ&プレイコンテスト

（かめありリリオホール）

レシテーション：7名、プレイ1校、ス

ピーチ1：7名、スピーチ2：24名参

加スピーチ2の優勝者（金町中3年）が

都英語学芸会において特別賞に入賞した。

◇2月18日 研究授業・研究協議会

授業者：土井真智子 教諭（金町中）

講 師：未定

◇3月10日 研究授業・研究協議会

授業者：戸部みか 教諭（新宿中）

講 師：未定

（高砂中学校長 余野直紀 記）

# 江戸川区

## I. 研究主題

「新学習指導要領への移行を踏まえた指導計画・指導内容の工夫」

## II. 活動の経過

◇5月19日(水)「区中研総会」「役員会」  
・組織及び年間活動計画確認

◇11月10日(水) 授業研究

(1) 授業者 小柳守生 主任教諭  
(西葛西中学校)

(2) 講師 中村 馨 先生  
(文京区教育センター)

◇12月9日(木) 授業研究

(1) 授業者 料所奈緒子 教諭  
(松江第五中学校)

(2) 講師 関口 智 先生  
(清新第一中学校)  
渡辺雅子 先生  
(足立第十四中学校)

◇6月2日(水)、11月18日(木)

・小、中、高の連携協議

◇11月～12月(全中学校)

・スプリングコンテスト

◇2月17日(木) 講演会

(1) 講師 明石達彦 先生  
(千代田区立九段中等教育学校)

(2) 内容「新学習指導要領を踏まえた具体的な指導内容と方法」

◇3月 役員会

・反省と次年度計画

(松江第五中学校長 新田真起雄 記)

# 八王子市

## I. 研究主題

「小学校英語活動との連携」

## II. 研究の経過

◇7月27日(火)

パワーアップ研修会  
テーマ

「小中一貫英語教育に対する  
授業力アップを目指して」

午前の部

「効果的なアクティビティの習得」

講師 ELEC北里大学外国人講師  
研修コーディネーター

Leslie Sagara-Yoshimura 先生  
(レスリー・相良・吉村)

内容 授業内で活用できる様々なアクティビティを実際に受講者が体験し、自身の授業での応用を図る一助となった。

午後の部

「小中一貫の英語教育を目指して」

講師 上智大学外国語学部教授  
吉田研作 先生

内容 新学習指導要領の小・中・高改訂のポイントを確認し、小学校での英語活動と中学校での英語学習の円滑な繋がりを図るためのいくつかの留意点をお示しいただいた。さらに、その実現のために、中学校英語教師としてどのような変革が求められているかを示唆していただいた。

(第七中学校副校長 逸見 守 記)

# 立 川 市

## I. 研究主題

「自ら学ぶ力を育て、確かな学力の定着を図る～新学習指導要領の趣旨を生かして～」

## II. 研究の経過

◇5月12日 一斉教科研究部会

①組織作り

②研究主題と活動計画の作成

◇7月29日 研修会①

テーマ 「新学習指導要領の趣旨」

講 師 田吉國子 先生

(教育出版教育研究所)

内 容 新学習指導要領の趣旨、それに基づいた授業・評価の仕方

◇8月24日 研修会②

テーマ 「スピーチ指導」

講 師 石井 亨 先生

(深川八中主任教諭)

内 容 スピーチ指導のねらい、発表方法、評価

◇12月16日 研究授業

授業者 日座正太 教諭 (七中)

内 容 NEW CROWN ENGLISH

SERIES 1 LESSON 7-①

現在進行形の導入、活動

◇2月16日 研究発表会

会 場 立川第一中学校

テーマ 「学力向上 ～家庭学習を含めた学習習慣の確立と基礎学力の定着～」

発表者 高橋洋子 主任教諭 (一中)

(立川第七中学校教諭 日座正太 記)

# 武 蔵 野 市

## I. 研究主題

「発信力を高める指導の工夫」

## II. 活動の経過

◇4月21日 教育研究会一斉部会

組織作り、研究主題決定、情報交換

◇5月12日 定例部会

今年度の予算、研究の進め方

◇9月15日 市教育研究会講演会

◇10月13日 定例部会 (研修会)

内 容 : Focusing on Language in the Classroom

講 師 : British Council

Ms. Rachel Stamp

◇11月10日 研究授業・協議会

授業者 : 伊藤るみ子 教諭 (一中)

高山和美 教諭 (一中)

入江裕美子 教諭 (一中)

2年生少人数授業

◇1月19日 定例部会

授業・試験のアイデアについて

◇2月17日 研究発表会 (紙上)

(第六中学校教諭 伊藤義則 記)

## 三 鷹 市

### I. 研究主題

「小・中連携した英語コミュニケーション能力の育成」

### II. 研究の経過

- ◇ 4月21日 鷹教研総会・一斉部会
  - 中学校部会
  - 小・中合同部会
- ◇ 5月12日 合同部会
  - 中学入門期の英語の導入の仕方
  - 小学校との連携の仕方について
  - 合同研修会研究授業計画案検討
- ◇ 6月9日 小・中合同研究会
  - 研究授業  
授業者：井手久美 教諭  
齋藤優子 教諭  
(第七中学校)  
講 師：鬼原芳枝 先生  
(江戸川区教育委員会)
- ◇ 7月7日 小学校部会
  - 研究授業  
授業者：山本英理子 教諭
- ◇ 8月25日 中学校部会
  - 中学1年生の1学期中間考査問題の検討
  - 1学期の小学校乗り入れ授業の報告
- ◇ 9月8日 小・中合同研究会
  - ALT派遣会社より講師を招いて講演会
    - ・外国における小、中学校の学校比較
    - ・ティームティーチングプランについて
- ◇ 10月6日 小学校部会
  - 文科省の新学習指導要領に対応した外国語活動および外国語科の授業実践例映像資料を視聴し、英語活動について検討
- ◇ 11月10日 小・中合同研究会
  - 研究授業  
授業者：福島健明 教諭  
(第六小学校)  
講 師：松永 透 統括指導主事  
(三鷹市教育委員会)
- ◇ 2月16日 研究発表会  
(第七中学校教諭 齋藤優子 記)

## 青 梅 市

### I. 研究主題

「より良い授業の工夫と創造」

—小・中学校の連携を深め、生徒の英語の運用能力・理解力を高めるために—

### II. 研究の経過

- ◇ 5月12日 中教研総会・部会
- ◇ 8月6日 研修会
  - ・ビデオ視聴：「遠い空の向こうに」  
(Total English Book3 所載)
  - ・研究協議：
    - ① 1学期の授業を振り返って  
(定期テスト等を中心に)
    - ② 「中学校入学前の英語学習体験と入学後の学習行動・成果との相関関係についての調査」プロジェクト・チームについて  
(第六中副校長 田中 眞 記)

# 府 中 市

## I. 研究主題

「小・中の英語指導の連携を図る—小学校で学んだ内容を生かし、コミュニケーション能力を伸ばす指導のあり方—」

## II. 研究の経過

◇4月14日 部員総会

◇6月9日 講演会・ワークショップ

講 師：駒沢女子大学

太田 洋 准教授

内 容：小学校の英語活動をどう中学校につなげるか、中学校でやっていることをどう見直していくかについて。

◇8月18日 夏のワークショップ

講 師：九段中等教育学校

田口 徹 主任教諭

内 容：「小中連携を視野に入れた入門期の指導」をテーマに、講演およびワークショップ。

◇9月8日 講演会

講 師：神奈川大学

久保野雅史 准教授

内 容：小・中・高の連携、とりわけ中学から高校にどうつなげるかを、実践的にお話しいただいた。

◇10月14日 研究授業

授業者：第二中学校

前川拓哉 教諭

内 容：教師道場研究授業と研究協議に参加させていただいた。

◇11月10日 小学校英語活動研究授業

第六小学校・佐藤 篤 教諭。研究協議にも参加。

◇1月12日 研究授業

授業者：第一中学校

大和田わかな 教諭

講 師：清泉女子学院大学

渡邊時夫 教授

◇2月2日 府教研発表会

◇3月2日 次年度の予定・計画

(第一中学校主任教諭 岸川裕子 記)

# 昭 島 市

## I. 研究主題

「基礎基本の定着から表現力へ」

## II. 研究の経過

◇4月14日 部会

・研究主題設定、年間活動計画、組織作り

◇5月26日 部会

「基礎学力の定着について」

・各校からの実践報告

・「基礎学力とは何か」についての意見交換

◇10月6日 部会

・生徒に付けさせたい基礎学力についての意見交換

・1月部会小中連携について

◇1月24日 部会

「小中連携について」

東小学校（6年生）

参加 3校 5名

（中学校ALT含む）

内容：“I want to be a ○○.”

◇1月28日 部会

「小中連携について」

つつじヶ丘南小学校

参加 1校 1名

◇2月7日 部会

「小中連携について」

拜島第三小学校

参加 4校 9名

（福島中学校教諭 齊藤美佳 記）

## 調 布 市

### I. 研究主題

「生き生きと学び、教えるために  
－魅力ある授業法を実践例から学ぶ－」

### II. 研究の経過

◇ 5月12日 調中研総会、一斉部会

- ・本年度役員の確認
- ・研究主題、活動計画の検討

◇ 6月16日 講習会

「新学習指導要領」の解説

講 師：林 宣之 指導主事

(東京都教職員研修センター)

内 容：新学習指導要領のポイントと、  
小学校外国語活動において中学  
校の教員ができることについて  
教えていただく。

◇ 8月25日 研修会

「言葉の力を育てる英語教育」

講 師：杉本 薫 教諭

(東京都立両国高等学校附属中学校)

内 容：4技能のバランスが大切であり、  
そのための具体的なアイデア  
や実践事例を教えていただく。

◇ 11月9日 公開授業、協議会

授業者：松村敏以 教諭

(調布市立第六中学校)

授業内容：New Crown1 Lesson6

◇ 1月13日 公開授業、協議会

授業者：大重裕嵩 教諭

(調布市立第五中学校)

授業内容：New Crown2 Lesson7④

◇ 2月2日 研究発表会

(第八中学校教諭 佐藤文子 記)

## 町 田 市

### I. 研究主題

「教科書とノートを活用した指導方法」

### II. 研究の経過

◇ 4月14日 一斉部会

- ・組織作り
- ・研究主題と年間指導計画

◇ 5月13日 定期総会

◇ 11月10日 講演会

講 師：日臺滋之 准教授

(玉川大学)

内 容：教科書を使用しての様々な音読  
指導、ペアワーク、ノートの活  
用方法、辞書指導、インタビュ  
ーテストなどのテクニック、実  
践事例を学ぶことができた。多  
くの教員と意見交換を行い、様  
々な指導方法をシェアできた。

◇ 2月2日 (予定)

ビデオによる研究授業

授業者：岸 由季 先生

(山崎中学校)

授業内容：2年Lesson7－2

(教師道場公開授業との連携。)

(鶴川中学校教諭 熊丸浩康 記)

## 小 金 井 市

### I. 研究主題

「生き生きとした言語活動をめざして」

### II. 研究の経過

◇4月 組織作り、研究主題設定等

◇6月 学習会

テーマ 「副教材・試験問題の研究」

◇10月 講演会

テーマ 「生き生きとした言語活動を支えるもの」

講 師 東京都立両国高等学校附属中学校教諭 杉本 薫 先生

◇11月 立川国際中等教育学校見学中高一貫校の英語授業参観と協議会

◇1月 講演会

テーマ 「新学習指導要領について」

講 師 玉川大学教授 高橋貞雄 先生

### III. まとめ

今年度は講演会を2回と中高一貫校の見学を行うことが出来た。

10月の講演会では、中学生の英語はCommunication Skillの習得にあるという目標の下、実際の授業でのポイントを絞ってわかりやすく提示され、大変参考になった。

11月には立川国際中等教育学校を訪問し、協議会では評価法を考えるなど、実りある協議会を持つことができた。

(小金井第二中学校教諭 平野 茂 記)

## 小 平 市

### I. 研究主題

「4技能育成のための指導法の工夫」

### II. 研究の経過

◇4月21日

・小平市中学校教科等研究会  
組織づくり 年間計画

◇7月26日

・英語科研修会

内 容：授業の内容と構成を見直そう  
～使える英語力～

講 師：相沢秀和 主任教諭  
(昭島市立瑞雲中学校)

◇7月27日

・英語科研修会

内 容：音読指導の工夫

講 師：阿久津仁史 主幹教諭  
(文京区立茗台中学校)

◇9月22日

・研究授業・協議会

授業者：清水國義 主任教諭  
(小平市立小平第四中学校)

授業内容：Lesson 4

「At a Nature Park (命令文)」

講 師：安原美代 先生  
(都留文科大学講師)

◇10月26日

・研修のまとめ

(小平第一中学校教諭 村口恵里奈 記)

## 日 野 市

### I. 研究主題

「確かな学力の育成を目指して」  
～授業研究の充実～

#### 副題

「コミュニケーション能力を高める  
ICT機器の活用」

### II. 研究の経過

- ◇5月12日 中教研総会
- ◇6月2日 年間計画の検討  
ALTのシステムについて研修
- ◇7月7日 ICT機器活用実践事例研究
- ◇9月17日 授業研究  
授業者 平田美和 教諭 (三沢中)  
講 師 中谷 愛 先生  
(多摩市教育委員会指導主事)
- ◇12月3日 授業研究  
授業者 野地優子 教諭 (第三中)  
講 師 林 宣之 先生  
(東京都教職員研修センター  
研修部教育経営課指導主事)
- ◇2月7日 公開授業参観  
授業者 森田 剛 教諭 (大阪上中)
- ◇2月16日 中教研発表会  
(三沢中学校主任教諭 斎藤 基 記)

## 東 村 山 市

### I. 研究主題

「新学習指導要領を見据えた言語活動の  
工夫」

### II. 研究の経過

- ◇4月 組織作り
- ◇5月 定期総会
- ◇6月 ビデオによる授業研究  
太田洋先生の研究授業のビデオを使って
- ◇9月 授業研究  
授業者 川村美季 教諭  
第五中学校 2年生  
授業内容 不定詞I want to be～  
講 師 東京外国語大学  
工藤洋路 先生
- ◇10月 授業研究  
授業者 中橋 文 教諭  
第三中学校 3年生  
授業内容 接触節による後置修飾  
講 師 玉川大学  
日臺滋之 先生
- ◇11月 講演会  
講 師 駒沢女子大学  
太田 洋 先生  
「新学習指導要領を見据えた言語  
活動の工夫」
- ◇1月 教材研究
- ◇2月 研究発表会
- ◇3月 今年度のまとめ  
(東村山第二中学校教諭 谷口弘美 記)

# 国 分 寺 市

## I. 研究主題

「身近な題材を用いた表現方法」

## II. 研究の経過

◇4月14日「市教研一斉部会」

- ・組織作り
- ・研究主題と年間計画決定

◇6月2日「ワークショップ」

内 容：「パソコン等を活用した授業展  
開」

講 師：伊地知可奈 先生  
(練馬区立八坂中学校)

◇10月13日「研究授業」

授業者：望月 厚 先生  
(国分寺市立第三中学校)

講 師：中村 馨 先生  
(文京区教育センター)

◇11月10日「市教研一斉部会」

- ・新学習指導要領の理解
- ・各校における実践報告

◇1月12日「市教研一斉部会」

- ・小中連携実践校の報告
- ・研究のまとめ

今年度は、前年度のテーマ「積極的に英語を使おうとする意欲を高める工夫」をさらに具体化し、「身近な題材を用いた指導」について研究を深めた。

(第二中学校教諭 桑野哲治 記)

# 国 立 市

## I. 研究主題

「小中学校の英語授業の交流  
～英語ノート活用の仕方②」～

## II. 研究の経過

◇4月22日

講演、組織作り、研修計画作成

◇5月12日 研究主題の決定

◇6月9日

小学校、中学校教諭による模擬授業  
情報交換

◇7月22日

小学校、中学校教諭による模擬授業  
学習指導要領の検討

研究授業指導案検討・協議

講 師：立川市適応指導教室

指導委員：宇津木悦子 先生

◇9月15日 研究授業指導案検討・協議

◇10月27日 公開授業研究(他教科)

◇11月10日 公開授業研究

授業者：第一中学校

星谷 香織 教諭

第三小学校

古賀 泉 教諭

対 象：小学5年生

講 師：立川市適応指導教室

指導委員：宇津木悦子 先生

◇1月26日 研修のまとめ

(第三中学校主任教諭 定森夏子 記)

# 福 生 市

## I. 研究主題

「小・中連携を目指した小学校外国語活動・中学校英語の指導の工夫～よりよい小・中の接続を目指して～」

## II. 研究の経過

- ◇4月21日 部会  
役員選出、研究副主題の設定、年間計画作成
- ◇5月21日 部会  
研究方針検討、指導案検討(6月)
- ◇6月9日 小学校研究授業  
第6学年「カレーはいかが」  
講 師：須田和也 教諭  
(福生第二中学校)  
授業者：田渕文恵 教諭  
(福生第七小学校)
- ◇7月7日 研究発表の方向検討
- ◇8月23日 指導案検討(9・10月)
- ◇9月8日 中学校研究授業  
第2学年「自己表現」  
講 師：吉岡俊幸 先生  
(町田市立大戸小学校校長)  
授業者：中山 恵 教諭  
(福生第三中学校)
- ◇10月13日 小学校研究授業  
第6学年「将来の夢教えて」  
講 師：田村亜紀子 先生  
(福生市指導主事)  
授業者：芦川友美 教諭  
(福生市立第四小学校)
- ◇12月15日 指導案検討  
(1月) 研究発表準備
- ◇1月26日 小学校研究授業  
第4学年「何色が好き？」  
講 師：山本恵実子 先生  
(大田区道塚小学校校長)  
授業者：高橋光代 教諭  
(福生第六小学校)
- ◇2月26日 研究報告会  
(福生第三小学校)  
(福生第二中学校主任教諭 須田和也 記)

# 狛 江 市

## I. 研究主題

「リーディング力を高める指導」

## II. 研究の経過

- ◇4月12日  
英語部組織づくり、研究主題決め
- ◇5月10日 「市内教研総会」
- ◇7月5日  
小学校教員向けの「英語の授業研修会」に参加
- ◇7月12日 部長会
- ◇10月18日 授業研究  
授業者：中泉 純子 教諭(二中)  
授業内容：New Crown 1 Let's Read 1  
What do you treasure?  
講 師：田吉 國子 氏  
(教育出版(株)教育研究所)
- ◇11月22日 部長会
- ◇1月17日 部長会
- ◇2月24日 「市中教研発表会」  
(狛江市立狛江第一中学校  
教諭 大宅完志 記)

# 東 大 和 市

## I. 研究主題

「基礎・基本の定着を目指した指導のあり方」～語彙指導の充実を通して～

## II. 研究の経過

### ◇5月12日(水) 一斉部会

会 場：東大和市立第一中学校

内 容：会員自己紹介、担当者選出、  
研究主題の検討、活動方針・  
活動計画の作成

### ◇8月23日(月) 部会及び講演会

講 師：日臺滋之 先生(玉川大学)

テーマ：「基礎・基本の定着を目指した  
指導」

内 容：①各学校より情報交換  
②講師講話

### ◇11月10日(水) 授業研究会

会 場：東大和市立第四中学校

授業者：仲 圭一 主任教諭

講 師：加藤良則 先生(東洋学園大学)

協議会：①各校より講評

②講師講評・助言

(第四中学校主任教諭 仲 圭一 記)

# 清 瀬 市

## I. 研究主題

「小中学校の英語教育の連携のあり方」

### ◇主題設定

小学校英語指導の全面的な本格化で中学校教員が、小学校の授業の実際に触れ、ALTや教材の運用法など指導や連携のあり方などを把握したい。

## II. 研究の経過

### ◇研究の方法

市内小学校(各中学校の近隣校)で2回の英語活動等の授業を参観。

### ◇清瀬市立清瀬第六小学校にて

6年3組(11月)

2年1組(12月)

いずれも、ALTと担任による授業で授業の参観とその後の協議会を実施。

### ◇研究成果

小学校の先生方の直面する問題

(1) 手法で難儀する。

(2) ALTとの打合せでも不安あり。

(3) 聴き取りの力などで生徒に負ける。  
などと様々あり。中学校の教員が少なからず援助できることがある。

### ◇まとめ

今後も、小中学校の相互の行き来を教科レベルで維持したい。

常に英語授業の情報交換をする。

(清瀬第二中学校教諭 阿部末正 記)

## 東久留米市

### I. 研究主題

1. 明日からでも実践できる授業（指導法）の共有
2. 英語を苦手とする生徒も意欲的に参加出来る授業の工夫
3. 小学校英語活動と中学校英語の連携した指導について

### II. 活動の経過

- ◇5月12日 市授業改善研  
・研究主題決定
- ◇7月7日 研究授業  
久留米中学校3年生  
授業者：海川京子 教諭  
講師：東洋学園大学教授  
荒木秀二 先生
- ◇10月6日 研究授業（小中合同）  
大門中学校2年生  
授業者：藤勝大介 教諭  
講師：東京外国語大学  
工藤洋路 先生
- ◇11月10日 研究授業  
東中学校2年生  
授業者：佐藤孝幸 教諭  
講師：杉並区英語教育スーパー  
バイザー 石川史子 先生

※ 今年度、小中連携教育課程委員会が設置され、松香 洋子 先生（m p i）の指導のもと、中学校から2名、小学校から3名のメンバーで小中学校の連携したカリキュラムの研究も進められている。  
（中央中学校主幹教諭 中井 正弘 記）

## 武蔵村山市

### I. 研究主題

「英語の指導法の工夫・改善～ALTとの  
チームティーチングを通して～」

### II. 活動の経過

- ◇4月21日 市中教研一斉部会  
・組織編成  
・年間事業計画  
・研究テーマ設定
- ◇10月20日 授業研究・研究協議会  
授業内容：ALTとのチームティーチング（1学年）One World  
Lesson4 “how to～”（3学年）  
講師：林 宣之 先生  
（東京都教職員  
研修センター指導主事）
- ◇11月17日 市中教研一斉部会  
・各校よりALTとの授業内容報告  
・ワークシートの意見交換
- ◇2月16日  
授業研究・研究協議会・一斉部会  
・本年度の活動のまとめ  
・次年度の活動計画  
（第四中学校教諭 上村美穂香 記）

# 多 摩 市

## I. 研究主題

「ICTを活用した授業力向上」

## II. 研究の経過

◇5月12日(水)

市中教研一斉部会（聖ヶ丘中学校）

内容（1）英語部組織作り

（2）研究主題と年間計画決定

◇7月9日(金) 市中教研一斉部会

授業者 村田千鳥 教諭（和田中）

エドワード ワインズロー先生

講 師 中谷 愛 先生

（教育指導課教育指導主事）

内 容 ALTとのTTによる生徒の学習  
意欲を引き出す指導

◇11月9日(火) 市中教研一斉部会

授業者 築瀬 学 主任教諭（鶴牧中）

Robert Paquet 先生

講 師 中谷 愛 先生

（教育指導課教育指導主事）

内 容 ALTとのTTによるICTを活用  
した授業

◇3月8日(火) 市中教研一斉部会

（予定）

授業者 藤野康明 教諭（多摩中）

Jennifer Hammond 先生

内 容 ALTとのTTによるICTを活用  
した授業

（多摩中学校主任教諭 中西文夫 記）

# 稲 城 市

## I. 研究主題

「新学習指導要領をふまえたコミュニケ  
ーション能力の育成～子どもの関心・  
意欲を高める表現活動～」

## II. 研究の経過

◇4月21日

組織編成、研究主題・年間活動計画

◇5月12日 研究授業指導案検討

◇6月16日 小学校研究授業

授業者：伊地知ふゆ彦 教諭

（稲城第三小学校）

講 師：伊藤悌夫 指導主事

（多摩教育事務所 指導課）

◇8月24日 ワークショップ

太田 洋 准教授（駒沢女子大学）

◇9月8日 中学校研究授業

授業者：川邊耕太 教諭

（稲城第四中学校）

講 師：肥沼則明 先生

（筑波大学付属中学校）

◇10月13日 中学校研究授業

授業者：杉村道子 教諭

（稲城第三中学校）

講 師：明石達彦 先生

（千代田区九段中等教育学校）

◇11月10日 ワークショップ

富田祐一 教授（大東文化大学）

（稲城第五中学校教諭 水田裕子 記）

## あきる野市

### I. 研究主題

「表現力の定着に向けた指導手順の工夫」

### II. 研究の経過

#### ◇6月9日 市中教研研究授業

授業者：古川絹恵 教諭（秋多中）

木下泰孝 教諭（秋多中）

桜田勢津子 教諭（秋多中）

授業内容：NEW CROWN 1

Lesson 2

講師：足立区立第十中学校

溪内 明 先生

#### ◇8月23日 市教研授業力向上研修

内容：実技面での能力向上の手段と

語彙指導の工夫について

#### ◇10月20日 市中教研研究授業

授業者：太田祐也 教諭（東中）

授業内容：NEW CROWN 2

Lesson 5

講師：駒沢女子大学准教授

太田 洋 先生

#### ◇1月26日 市中教研研究授業

授業者：松村依子 教諭（増戸中）

山根弓奈 教諭（増戸中）

授業内容：NEW CROWN 1

Lesson 8

講師：千代田区立九段中等教育学校

田口 徹 先生

（御堂中学校教諭 東井靖展 記）

## 西 東 京 市

### I. 研究主題

「新学習指導要領の研修」

### II. 研究の経過

#### ◇5月12日

西東京市中学校教育研究会総会、一斉部会

①本年度役員の確認

②昨年度活動報告・今年度活動計画

#### ◇7月27日 夏期研修会

・テーマ：「新学習指導要領への対応

－これからの中学校英語教育－」

・講師：文京区教育センター

教員研修専門相談員

中村 馨 先生

・内容：新学習指導要領の具体的な改訂

点をもとに、今後の中学校外国

語科教育の方向性について講義

をしていただいた。後半はワー

クショップ形式で有意義な研修

となった。

#### ◇11月10日 研究授業及び協議会

・授業者：菅原陽子 教諭（東小学校）

・授業内容：“Let’s go shopping.”

（4年生 総合的な学習の時間）

・小学校外国語活動部と中学校英語部の

合同研修会であった。活発な意見交換

ができ、有意義であった。

#### ◇1月13日 研究授業及び協議会

・授業者：當麻忠幸 主任教諭

（ひばりが丘中）

・授業内容：New Crown3 Let’s Read1

（田無第一中学校主任教諭 坂藤裕子 記）

## 羽村・西多摩

### I. 研究主題

「生徒が意欲的に参加することのできる  
授業の工夫」

### II. 研究の経過

- ◇ 5月22日(水) 日の出町立平井中学校  
西多摩中学校教育研究部会及び一斉部会
  - ・ 役員の選出と承認
  - ・ 部長校及び研究授業の順番についての検討
  - ・ 研究主題と年間予定の確認
- ◇ 6月23日 研究授業  
羽村市立羽村第三中学校
  - ・ 授業者 原田裕江 教諭  
横田 愛 教諭
  - ・ 内 容 TOTAL ENGLISH1  
(学校図書) 三単現のSの導入
  - ・ 講 師 多摩市教育委員会  
中谷 愛 指導主事
- ◇ 8月20日 夏期研修会
  - ・ 場 所 羽村市羽村第三中学校  
パソコン室
  - ・ 内 容 映画字幕の翻訳実践
  - ・ 目 的 多様性のある英語学習の研修  
生活場面に即した英語運用能力の向上
- ◇ 2月2日(水) 日の出町立平井中学校  
西多摩中学校教育研究部会 全体会  
(羽村第三中学校教諭 原田裕江 記)

## 大 島

### I. 研究主題

『小学校外国語活動と中学校英語との連携』

### II. 活動の経過

- ◇ 4月22日 町中学英語研究会
  - ①平成21年度活動報告
  - ②平成22年度組織作り  
役員選出・研究主題の設定・年間活動  
計画の検討
- ◇ 6月16日 教育研究会英語部会
  - ①研究授業  
場 所：第二中学校  
対 象：第2学年  
授業者：谷所 篤 教諭
  - ②研究協議
- ◇ 10月20日
  - ①研究授業  
場 所：第三中学校  
対 象：第2学年  
授業者：吉本洋人 教諭
  - ②研究協議
- ◇ 11月24日
  - ①協議「英語ノートの活用について」
  - ②情報交換
- ◇ 12月10日
  - ①研究授業  
場 所：つつじ小学校  
対 象：第6学年  
授業者：新井 恒 教諭
  - ②研究協議
- ◇ 2月2日
  - ①研究授業  
場 所：第一中学校  
対 象：第1学年  
授業者：松島陸麿 教諭
  - ②研究協議：本年度の反省と来年度の課題  
(第三中学校教諭：吉本洋人 記)

# 八 丈 島

## I. 研究主題

- (1) 基礎学力の充実を目指した指導の工夫
- (2) 実践的なコミュニケーション能力の育成

## II. 活動の経過

- ◇4月16日 第1回部会
  - ・組織作り、研究主題、活動計画
- ◇6月9日、15日 授業参観  
授業者：山入端信之 主幹教諭
- ◇10月16日 第2回部会  
国際理解教室、情報交換など
- ◇12月9日、10日 国際理解教室実施  
講師にジンバブエの方を迎え異文化理解の機会、国際交流の場とし、事前・事後学習も実施  
12月9日 三原中学校、大賀郷中学校  
12月10日 富士中学校
- ◇1月22日 第3回部会
  - ・共通テストの分析、まとめ  
(三原中学校主幹教諭 山入端信之 記)

平成22年度  
中英研事業報告

1. 4月20日（火）役員会  
於：駒込中学校  
①役員組織等の確認  
②年間事業計画の検討  
③中英研定期総会に向けて  
④役員会の日程  
⑤関プロ東京大会について  
⑥全英連関係等
2. 5月7日（金）定期総会・懇親会  
於：駒込中学校  
①21年度事業報告  
②21年度決算報告  
③21年度会計監査報告  
④新役員の承認  
⑤22年度基本方針の承認  
⑥22年度事業計画・予算の承認  
◎懇親会
3. 6月8日（火）  
関東甲信地区中学校  
英語教育研究協議会  
第1回理事研修会  
於：北とぴあ  
関プロ東京大会について
4. 6月21日（月）役員会  
於：駒込中学校  
①全英連中学校部研究協議会について及び全英連全国大会について  
②関プロ東京大会について  
③関プロ理事研修会について  
④地区部長、幹事名簿について  
⑤十五大都市北九州大会について  
⑥中英研だよりについて  
⑦サマーワークショップ関係  
⑧コミュニケーションテストについて  
⑨都中英研部長・幹事会について
5. 7月12日（月）  
「都中英研だより」第59号発行
6. 7月21日（月）役員会  
於：駒込中学校  
①関プロ東京大会進捗状況  
②全英連神奈川大会について  
③サマーワークショップ関係  
④都中英研地区部長・幹事会について
7. 7月～8月  
中英研学力調査問題の作成
8. 7月26日（月）  
第1回  
研究部夏期語い指導ワークショップ  
於：港区立赤坂中学校  
指導者：石井 亨  
江東区立深川第八中学校教諭  
大貫 由希  
町田市立山崎中学校教諭  
北原 延晃  
港区立赤坂中学校教諭  
8月4日（水）  
第2回  
研究部夏期語い指導ワークショップ  
於：品川区立小中一貫校日野学園  
指導者：関口 智  
江戸川区立清新第一中学校教諭  
上尾栄美子  
江戸川区立篠崎第二中学校教諭  
岡崎 伸一  
品川区立小中一貫校日野学園  
8月19日（木）  
第3回  
研究部夏期語い指導ワークショップ  
於：江東区立第三砂町中学校  
指導者：永松 朋美  
江東区立第三砂町中学校教諭  
原田 博子  
江東区立深川第一中学校教諭  
北原 延晃  
港区立赤坂中学校教諭
9. 8月23日（月）役員会  
於：豊島区立駒込中学校  
①関プロ東京大会について  
②全英連神奈川大会について  
③コミュニケーションテスト問題の検討

- 「区市町村英語教育研究部部長会・幹事会」
- ④各地区の活動状況について  
〈講演会〉  
「新学習指導要領全面実施に向けて」  
麗澤大学教授 望月 正道先生
10. 9月24日(金) 役員会  
於：駒込中学校  
①関ブロ東京大会関係  
②全英連神奈川大会について
11. 10月7日(木) 役員会  
於：駒込中学校  
①関ブロ東京大会関係  
②全英連神奈川大会関係
12. 10月15日(金)  
第50回15大都市公立中学校英語教育研究連絡協議会  
於：福岡市
13. 10月28日(木) 役員会  
於：駒込中学校  
①関ブロ東京大会について  
②全英連神奈川大会について  
③各種研修会報告  
④英語学芸大会について
14. 11月5日(金) 6日(土)  
第60回全国英語研究大会神奈川大会  
於：第1日目 神奈川県民ホール  
第2日目 神奈川県民ホール  
ワークピア横浜  
産業貿易センターホール
15. 11月10日(木)  
関東甲信地区中学校英語教育研究協議会  
第2回理事研修会  
於：ギャラクシティー西新井文化ホール  
①関ブロ東京大会について  
②関ブロ東京大会前日準備
16. 11月11日(金)  
第34回関ブロ東京大会  
於：ギャラクシティー西新井文化ホール  
足立区教育相談センター
- 主題「English Education 2010  
英語教育の変革期を創る」  
—新学習指導要領全面実施に向けて—
17. 12月5日(日)  
第63回東京都英語学芸大会
18. 12月6日(月) 役員会  
於：駒込中学校  
①関ブロ東京大会について(課題検討)  
②コミュニケーションテストについて  
③研究部授業公開と研究発表について  
④英語学芸大会について
19. 12月10日(金)  
「都中英研だより」第60号発行  
於：東洋学園大学本郷キャンパス
20. 1月17日(木) 役員会  
於：駒込中学校  
①研究部発表会の準備  
②平成22年度役員人事案
21. 2月21日(月) 役員会  
於：駒込中学校  
①研究部発表会について  
②平成22年度役員人事について  
③次年度活動計画について
22. 2月23日(火)  
中英研研究部発表会  
於：葛飾区立葛美中学校  
①研究授業：小川 登子教諭  
②研究発表「語いと英語教育(24)」  
③研究協議：  
④講師：小菅 敦子先生  
(東京学芸大学世田谷中学校)
23. 3月10日(木)  
「中英研会報」第69号発行
24. 3月末 役員会予定  
於：駒込中学校  
①22年度各部事業・決算報告  
②次年度新役員構成の確認  
③次年度総会について  
④情報交換  
(総務部長：飯島光正 記)

# 東京都中学校英語教育研究会会則

## 第1章 総 則

- 第1条 本会は東京都中学校英語教育研究会と称する。
- 第2条 本会は事務局を会長指定の場所に置く。
- 第3条 本会は東京都中学校の英語教育関係者を会員とする。

## 第2章 目的及び事業

- 第4条 本会は中学校英語教育に関する事項を研究し、会員の識見の向上に努めると共に、英語教育の振興を図ることを目標とする。
- 第5条 本会は前条の目的を達成するために、次の事業を行う。
1. 各種研究会の開催（研修会、発表会、講演会等）
  2. 調査活動（コミュニケーションテストの作成とその分析、調査活動等）
  3. 研究調査（英語教育に関わる基礎的かつ実践的な課題等）
  4. 各種英語教育団体との連絡
  5. 機関誌発行、本会の目的達成に必要な事業

## 第3章 役員及び幹事

- 第6条 本会には次の役員および幹事をおく。
1. 会長1名
  2. 副会長若干名
  3. 部長各部ごと1名
  4. 副部長各部ごと若干名
  5. 会計監査2～3名
  6. 幹事各区市ごとに1～2名
- 第7条 役員を選出は次のとおりとする。
1. 会長・副会長は役員会の推薦により、総会の承認を得なければならない。
  2. 部長・副部長は役員会の推薦により、会長が委嘱する。
  3. 会計監査は役員会の推薦により、会長が委嘱する。
- 第8条 役員の仕事は次のとおりとする。
1. 会長は本会を代表し、会務を総括する。
  2. 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行すると共に、各部を分担する。
  3. 部長は担当副会長と協議の上、部会を召集し、会務を執行する。
  4. 幹事は本部と各地区との連絡にあたる。
  5. 事務局は総務部が担当し、事務局長は総務部長があたる。
  6. 会計監査は会計の監査を行い、その結果を総会に報告する。

第9条 役員の任務は1年とする。ただし再任を妨げない。

第10条 本会に相談役、参与及び顧問をおくことができる。

1. 相談役はOB会長及び副会長より、参与は現職校長より役員会の推薦により会長が委嘱する。
2. 顧問は英語科出身の指導主事より会長が委嘱する。

## 第4章 会 議

第11条 会議は次のとおりとする。

1. 総 会

毎年1回会長が召集し、会務の報告、役員的人事、予算、決算等を審議し、決定する。ただし、必要がある場合は臨時に開くことができる。

2. 役員会

会長・副会長・部長をもって構成し、必要に応じて副部長・会計監査を加え、会長の諮問機関とする。

3. 幹事会

役員・幹事をもって構成し、学期1回以上例会を開き、会務を執行する。

4. 部 会

[総務部] 庶務・会計・渉外および他部に属さない事項の処理

[事業部] 会の年間計画・英語学芸会・研修会、その他会長より委嘱された事業の立案・計画・推進

[調査部] コミュニケーションテスト及び英語教育に関する調査の実施

[出版部] 中英研だより・会報などの発行

[プロジェクト・チーム部] 英語教育に関わる今日のかつ実践的な課題についての研究の推進

## 第5章 会 計

第12条 本会の会費は東京都中学校研究会よりの交付金をもってあてる。

第13条 本会の経費は会費およびその他の収入による。

第14条 本会の予算・決算は総会の承認を得なければならない。

第15条 本会の会計年度は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

## 第6章 付 則

第16条 本会則は昭和60年4月1日より実施する。

第17条 本会則の変更は総会の承認を得なければならない。

第18条 細則は幹事会で定めることができる。

第1次改定 第5条2、3及び第4章4は平成17年5月19日より実施する。

## 平成22年度 東京都中学校英語教育研究会役員名簿

役 名	氏 名	所 属 校
会 長	井 田 宗 宏	東大和市立 第二中学校
副 会 長	竹 下 賢	板橋区立 板橋第三中学校
"	飯 島 光 正	豊島区立 西池袋中学校
"	廣 田 幸 男	小平市立 第四中学校
"	牛 島 順 子	目黒区立 第四中学校
"	重 松 靖	国分寺市立 第三中学校
"	阿 字 宏 康	板橋区立 西台中学校
"	石 鍋 浩	足立区立 新田学園
"	醍 醐 路 子	豊島区立 駒込中学校
"	山 崎 好 美	府中市立 府中第七中学校
"	惣 田 修 一	足立区立 鹿浜中学校
総務部長	飯 島 光 正	豊島区立 西池袋中学校
経理部長	牛 島 順 子	目黒区立 第四中学校
副 部 長	鳥 海 重 年	中野区立 中央中学校
"	福 井 正 仁	港区立 お台場学園
"	石 川 真知子	江東区立 亀戸中学校
"	藤 原 進	大田区立 南六郷中学校
部 員	田 中 誠一郎	東村山市立 第四中学校
"	福 島 恵 子	練馬区立 田柄中学校
"	近 藤 浩	東久留米市立 久留米中学校
"	堀之内 國 義	足立区立 第十三中学校
"	石 川 容 子	足立区立 第十二中学校
"	新 野 美 紀	練馬区立 石神井東中学校
"	滝 口 均	渋谷区立 本町中学校
"	長 尾 諭	大田区立 石川台中学校
"	佐々木 昭 央	目黒区立 第九中学校
調査部長	重 松 靖	国分寺市立 第三中学校
副 部 長	刀 根 武 史	小金井市立 東中学校
"	本 多 敏 幸	千代田区立 九段中等教育学校
"	岩 崎 紀美子	品川区立 荏原第六中学校

役名	氏名	所属校
部員	今井一憲	中野区立第九中学校
"	阿久津仁史	文京区立茗台中学校
"	兼子真季	大田区立大森第八中学校
"	斉藤豊	江東区立第二南砂中学校
"	白井靖子	江東区立第二大島中学校
"	佐藤恵美	墨田区立文花中学校
"	白川智恵子	練馬区立大泉北中学校
"	小椋由紀子	荒川区立第七中学校
"	伊地知可奈	練馬区立八坂中学校
"	大森博	練馬区立中村中学校
"	大澤陽子	新宿区立牛込第三中学校
"	木村弘恵	世田谷区立上祖師谷中学校
"	三木謙二郎	大田区立馬込中学校
"	川口三保子	府中市立府中第六中学校
"	岸川裕子	府中市立府中第一中学校
"	野口哉寿子	小金井市立東中学校
"	野田まり子	瑞穂町立瑞穂第二中学校
"	瀬谷光子	世田谷区立芦花中学校
"	山下郁子	世田谷区立松沢中学校
"	宮崎大樹	あきる野市立秋多中学校
"	幡野洋子	日野市立第四中学校
"	斉藤基	日野市立三沢中学校
"	関口美佐緒	千代田区立九段中等教育学校
"	永井剛	あきる野市立五日市中学校
"	門倉聖恵	八王子市立みなみ野中学校
"	各務公仁余	江東区立深川第五中学校
"	須藤礼子	新宿区立西早稲田中学校
"	橋本浩	八王子市立由井中学校
"	高瀬ひとみ	千代田区立九段中等教育学校
"	料所奈緒子	江戸川区立松江第五中学校
"	近藤満利	北区立赤羽岩淵中学校

役名	氏名	所属校
部員	柴野泰行	足立区立淵江中学校
〃	小川登子	葛飾区立葛美中学校
〃	白井恵	羽村市立羽村第二中学校
〃	鈴木悟	港区立港南中学校(日本人学校派遣)
事業部長	横山達也	多摩市立和田中学校
担当副会長	牛島順子	目黒区立第四中学校
副部長	田口徹	千代田区立九段中等教育学校
〃	田島久士	大田区立糶谷中学校
〃	相沢隆二	文京区立第十中学校
部員	米澤登志子	目黒区立第八中学校
〃	多田渉	世田谷区立千歳中学校
〃	吉澤ひとみ	足立区立千寿桜堤中学校
〃	明石達彦	千代田区立九段中等教育学校
〃	大屋剛	都立大泉高等学校附属中学校
〃	雲出和子	にしみたか学園
〃	斉藤節子	豊島区立明豊中学校
〃	竹中敬子	都立城南特別支援学校
〃	漆畑拓也	町田市立金井中学校
〃	前川卓哉	府中市立府中第二中学校
研究部長	北原延晃	港区立赤坂中学校
担当副会長	廣田幸男	小平市立第四中学校
副部長	石井亨	江東区立深川第八中学校
〃	関口智	江戸川区立清新第一中学校
〃	原田博子	江東区立深川第一中学校
部員	二宮正男	新宿区立落合中学校
〃	横山牧子	狛江市立狛江第一中学校
〃	福井洋子	町田市立鶴川第二中学校
〃	溪内明	足立区立第十中学校
〃	大貫由季	町田市立山崎中学校
〃	岡崎伸一	品川区立日野学園
〃	福島美記子	板橋区立高島第三中学校

役名	氏名	所属校
部員	金子健次郎	大田区立大森第七中学校
〃	永松朋美	江東区立第三砂町中学校
〃	佐々木孝紀	江東区立深川第七中学校
〃	川崎慶介	新島町立新島中学校
〃	上尾栄美子	江戸川区立篠崎第二中学校
〃	江濱悦子	大田区立貝塚中学校
〃	中川智子	大田区立大森第十中学校
〃	太田恵美子	江戸川区立西葛西中学校
〃	紺野正典	足立区立第六中学校
出版部長	池田武男	西東京市立田無第四中学校
担当副会長	石鍋浩	足立区立新田学園
副部長	平林澄子	練馬区立中村中学校
〃	渡辺雅子	足立区立第十四中学校
〃	小柳守生	江戸川区立西葛西中学校
部員	下路博朗	足立区立第四中学校
〃	三岡一隆	練馬区立石神井西中学校
〃	今本由美子	練馬区立大泉中学校
〃	中井正弘	東久留米市立中央中学校
〃	赤塚貴音	台東区立桜橋中学校
〃	鈴木咲子	東村山市立第七中学校
〃	岡部芳枝	文京区立文林中学校
〃	塩田裕明	練馬区立大泉中学校
〃	當麻忠幸	西東京市立ひばりが丘中学校
〃	中西智子	文京区立第六中学校
P T部長	石川賢司	墨田区立錦糸中学校
担当副会長	醍醐路子	豊島区立駒込中学校
副部長	佐藤順一	墨田区立文花中学校
部員	原田博子	江東区立深川第一中学校
〃	上尾栄美子	江戸川区立篠崎第二中学校
〃	岸川裕子	府中市立府中第一中学校
〃	大内由香里	江戸川区立葛西第三中学校



## 平成22年度 顧問

氏 名	役 職
高野 敬三	教 育 庁 指 導 部 長
宇田 剛	教 育 庁 指 導 部 主 任 指 導 主 事
奈良本 俊夫	教育庁指導部高校教育改革担当主任指導主事
小澤 哲郎	教育庁指導部指導企画課統括指導主事
永森 比人美	教育庁指導部指導企画課統括指導主事
瀧 沢 佳宏	教育庁人事部試験室統括指導主事
川 越 豊彦	東京都教職員研修センター研修部教育経営課統括指導主事
荻野 勉	西部学校経営支援センター統括学校経営支援主事
田谷 至克	大田区教育委員会統括指導主事
清野 正	豊島区教育委員会統括指導主事
難波 浩明	北区教育委員会統括指導主事
五十嵐 浩子	練馬区教育委員会統括指導主事
松 永 透	三鷹市教育委員会統括指導主事
阿部 大介	教育庁指導部義務教育特別支援教育指導課指導主事
市村 裕子	教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事
米村 珠子	教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事
金 眞 広明	教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事
板 垣 繁	教育庁都立学校教育部高等学校教育課指導主事
中井 潤一郎	教育庁都立学校教育部高等学校教育課指導主事
松鶴 賢二郎	教育庁人事部試験室指導主事
林 宣之	東京都教職員研修センター研修部教育経営課指導主事
高橋 美香	東京都教職員研修センター研修部授業力向上課指導主事
小山 多香子	東京都教職員研修センター研修部教育開発課指導主事
紺谷 祥一	東京都教育相談センター指導主事
佐藤 勝也	文京区教育委員会指導主事
東條 貴史	江東区教育委員会指導主事
木内 苗津子	世田谷区教育委員会指導主事
西貝 裕武	足立区教育委員会指導主事
窪田 香	国立市教育委員会指導主事
重山 直毅	清瀬市教育委員会指導主事
中谷 愛	多摩市教育委員会指導主事
山口 直美	杉並区教育委員会指導主事

## 参 与

氏 名	学 校 名	職 名
新 庄 惠 子	港 区 立 高 陵 中 学 校	校 長
和 田 雅 光	文 京 区 立 本 郷 台 中 学 校	”
原 田 承 彦	大 田 区 立 大 森 第 七 中 学 校	”
岩 崎 正 道	世 田 谷 区 立 三 宿 中 学 校	”
中 村 貴 美 子	世 田 谷 区 立 梅 丘 中 学 校	”
佐 藤 恭 子	世 田 谷 区 立 尾 山 台 中 学 校	”
野 瀬 博	世 田 谷 区 立 弦 卷 中 学 校	”
島 本 環 樹	渋 谷 区 立 笹 塚 中 学 校	”
菅 野 武 彦	杉 並 区 立 松 溪 中 学 校	”
齊 藤 進	荒 川 区 立 南 千 住 第 二 中 学 校	”
大 山 明	練 馬 区 立 石 神 井 中 学 校	”
西 正 弘	練 馬 区 立 豊 溪 中 学 校	”
当 間 一 則	練 馬 区 立 石 神 井 南 中 学 校	”
中 野 利 彦	足 立 区 立 江 南 中 学 校	”
荒 川 善 則	足 立 区 立 上 沼 田 中 学 校	”
増 渕 裕 康	足 立 区 立 東 島 根 中 学 校	”
余 野 直 紀	葛 飾 区 立 高 砂 中 学 校	”
小 谷 野 良 行	八 王 子 市 立 甲 ノ 原 中 学 校	”
増 澤 強	武 蔵 野 市 立 第 五 中 学 校	”
岡 崎 美 昭	青 梅 市 立 新 町 中 学 校	”
中 島 理 智	昭 島 市 立 拝 島 中 学 校	”
石 村 康 代	日 野 市 立 第 三 中 学 校	”
山 口 順 一	多 摩 市 聖 ヱ 丘 中 学 校	”

## あ と が き

今年度もまた、文部科学省国立教育政策研究所・教育課程研究センター教科調査官の平木裕先生をはじめ、ご執筆者の皆様のお陰をもちまして「都中英研会報 第69号」を発行することができました。厚く御礼申し上げます。

さて、過日実施されました「第34回関東甲信地区中学校英語教育研究協議会」（関ブロ東京大会）では、都中英研の総力をあげて大会を運営し、参加者五百名を数えるほど大盛況のうちに幕を閉じました。この関心の高さは、現在の英語教育の状況が影響していると言えます。

今年度は、小学校で外国語活動を学んだ児童も中学校へ入学してきました。そして、中学校の新学習指導要領完全実施まで、あと1年を待つのみとなりました。このような時期に行われた関ブロ東京大会では、第1分科会では「4技能を総合的に育成する始動のあり方」、第2分科会では「文法指導と言語活動の一体的な指導のあり方」、第3分科会では「コミュニケーションに対する積極的な態度の育成のあり方」、第4分科会では「語彙指導と辞書指導のあり方」、そして第5分科会では「小学校と中学校が密接に連携した英語指導のあり方」という、時流に即した研究テーマを設けたために、とても高い関心を集めたと考えられます。

本会報では、今回も東京都全市区の地区部長ならびに幹事の方々によるご協力で、各地区活動報告を掲載することができました。どの地区においても、新学習指導要領への対応を着実に進めている状況が伺い知れます。また、小学校の外国語活動に関わり、小学校と連携した研究活動の実践も紹介されております。今までになく、多くの中学校英語科教員が小学校を訪れ、小学校の授業を見学する機会を得た模様です。

始まったばかりの外国語活動を教える小学校の先生は、まさしく暗中模索の中で、懸命に努めておられます。「素地」の解釈に悩む声も実際耳にしました。私たち中学校教員が、以前、授業づくりで苦労したことのある、ゲーム中心のコミュニケーション活動に疑問を感じていることも分かりました。小学校の先生方が、音声に興味をもたせる工夫と個に焦点を当てたコミュニケーション活動の実践、という視点に立ち、悩みから早く脱却してほしいと願うばかりです。その上で、中学校は今後、授業進行を全て英語で行う高校英語への接続、という課題をも真摯にとらえなければなりません。小中高の一層の連携に努めるのは必至です。

これら山積する課題に対して、本誌が少しでも解決への一助になれば幸いです。最後になりましたが、本誌の発行にあたり、ご支援を賜りました多くの先生方に感謝いたしますとともに、会員の先生方の一層のご活躍をお祈りいたします。

（都中英研出版部長 池田 武男）

## 都中英研会報 第69号

平成23年3月2日印刷  
平成23年3月7日発行

発行者 東京都中学校英語教育研究会

代表者 井田 宗宏

発行所 東京都中学校英語教育研究会  
東京都東大和市立第二中学校  
東京都東大和市南街3-60-4  
TEL (042) 561-2328

印刷所 (株)オフィス・サンライズ  
東京都大田区鶴の木2-12-10  
TEL (03) 5741-3146